

日 時 令和8年2月16日(月)午前9：30～

場 所 水戸市役所本庁舎 全員協議会室

令和7年度市政モニター提言書発表会

議 事 録

○司会

それでは、お時間になりましたので、市政モニター提言書発表会を始めさせていただきます。

本日は、お忙しい中、御出席いただきまして、ありがとうございます。

初めに、高橋靖水戸市長から御挨拶申し上げます。

○高橋市長

おはようございます。

市政モニターの最終提言発表会ということでお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。心から感謝申し上げます。

また、皆様方には、この1年間、市政モニターとして市政に関して様々なことを学び、そして、御意見、御提言をいただいたところでございまして、心から感謝を申し上げたいと思います。

皆様方が市政により一層関心をお寄せいただいて、この市政モニターが終わってからも、今後、いろいろと市政に関係していただいて、これからも様々な御意見、御提言をいただけるのかなという期待を寄せているところでもございます。

これから皆様方の提言を聞かせていただいて、それをどういうふう to 実現を図っていくか、あるいは、ストレートに無理なものでも、考え方をいろいろ加工しながら取り入れることができるのか、そんなことを行政の中でいろいろと揉ませていただきたいなと思っています。

今、特に、子育て支援を中心として、移住・定住のほうに何とか持っていこうということで、施策もそちらのほうに予算を重点配分させていただいているところなのですが、おかげさまで、少し景気も上向いてきて、賃金が高くなったり、物価が上がってきたということもあるのでしょうけれども、実は、税収のほうも上振れしていきまして、令和7年度から令和8年度に恐らく10億円を超える税収増になってくるのだろうなと思っています。

ただ、一方で、その税収の上振れ分を感じさせられないくらいやることが増えています。特に、扶助費といわれている福祉に関する給付金が激増しておりまして、特に障害者福祉に関係するもの、もちろん、高齢化に伴うものもあつたりもするのですが、とにかく激増しています。

税の上振れ分なんかはとにかくその扶助費とかで吹っ飛んでしまうくらい非常に多くなってきております。ただ、人々の人権とか命とか健康に関わるものでありますから、しっかり手当てをしていかなければならないということで、令和8年度の予算のほうもそれにしっかり対応できるような形にさせていただくということで、明日、議員の方々には内々示をさせていただくような状況にあります。

とにかく、そういうような状況の中で、いかに移住・定住に振り向けられるような子育て支援であるとか、教育であるとか、あるいは、企業の立地、創業やスタートアップ支援等に向けていけるか。いわゆる子育て、それから、働く場所の確保、多分、今日の発表の中にもあるかなと思うのですが、そういった様々な環境整備に市役所内のお金をとにかくかき集めて、それに向けられるかというところを、今、工夫をしているところでございます。

ただ、一方で、これに対して不満の声も上がってきていきまして、いろいろな業界団体の新年会に呼ばれて行くのですが、特に建設系のところに行くと、勘違いをしているのだと思う

のです。私はそんなにひどく削減をしたわけではないのですが、どうしても仕事が薄くなってきていると言われることがあります。それは、水戸市が子育てとか、教育とか、そちらのほうにばかり金を持っていくものだから、私たちに対する投資的な経費が激減して、私たちの仕事が薄くなっている。これを何とかしてもらわないと水戸市の建設業界が非常に停滞していくよみみたいなことを指摘をされたり、不満の声も上がってくるのです。

どうしても限られた財源なものですから、トレードオフをしなければなりません、こちらのほうに重点配分すれば、何かを削らなければならないというのは当たり前に出てくると思うのです。これは皆さんの企業でもそうだと思うのです。さっき言ったように、需要が多くなる以上に税収が上振れして、それをまた新たな施策に回せばいいのですが、新たな施策に回すどころか、新たな施策をやるには、どこかを削って新たな施策に回すというような状況にあるものですから、どうしても削られているようなところには不満の声が上がってくるということで、最近、少し動向を上げていまして、私がランドセルを背負わされてやっているのがあるのですが、高齢者の方々が、こどもにばかり金をかけていないで、私たち高齢者のほうにも金をかけてほしいと書き込みがあります。新年会に行くと、最近、私が挨拶をして、こども・子育ての話をする、私たちは見捨てるのか、どうでもいいのか、それよりもとにかく免許証を返しているのだからバスを走らせてほしいとか、家に迎えに来るようなデマンドタクシーを走らせてほしいとか、年金の生活では困ってしょうがないのだから、物価高騰対策で私たちに金を出してほしいとか、とにかくいろいろな御意見をいただくのです。

ただ、それにしても、今、水戸市の政策の一丁目一番地は、とにかくこども・子育てにお金を重点配分していこうということで、高齢者の方々にも、皆さんの将来のためにこども・子育てはあるのですよ。皆さんの将来を支える力をつけていかなければならないから、今、若い人たちに目を向けさせていただいているのですという説明をするのですが、なかなか理解をしていただけないところもあって、私たちの説明責任が足りていないなということを改めて実感をさせられているところなのですが、そこをしっかりと、いろいろな業界団体の方々にも、あるいは、いろいろな世代の方々にも、今、水戸市が置かれている状況はこういう状況で、今、ここに力を入れないと、20年後、30年後、50年後、もっと停滞するようなまちなになってしまうということをしっかりと説明をしながら、こども・子育て・教育中心な施策をこれからも展開していきたいなと思っています。

ただ、一方で、県庁所在地であり、中核市でありますから、都市行政もやっていかなければならないのです。水戸市の場合には、どうしてもいろいろなものを吸収していかなければならないので、文化施設も持たなければならぬ。スポーツ施設も持たなければならぬ。それから、いろいろな都市機能、道路であるとか、上下水道も含めてなのですが、やっぱりそういうものをきちんと整備しておかないと、水戸市を取り巻く県央地域の核とならないとここの衰退を招いてしまうから、水戸市が率先してそういった都市行政のほうも行っていかなければならないのです。

そこに私たちの厳しさがあって、ほかの市町村だったら到底やらなくていいようなことを水戸市は都市行政としてやっているわけです。だから、私たちは子育てもやらなければならぬ。教育もやらなければならぬ。インフラ整備もやらなければならぬ。ちょっと厳しい状況にあるのですが、そこを何とかプライオリティをしっかりと決めながら予算の配分をし

て、水戸市民ばかりではなくて、ほかの近隣住民の期待にも応えていかなければならないという立場にあるというところをしっかりと念頭に置きながら、これからも皆様方にいろいろ御意見をいただきながら行政運営をしっかりと進めていきたいと思っています。

それでは、今から皆さんの発表を聞かせていただいて、もちろん、すぐできるもの、それから、中長期的に検討を要するもの、これはちょっと難しいなどと言わざるを得ないもの等ございます。ただ、一方で、せっかく皆様方にお考えいただいた施策でありますので、どういうふうにすれば難しいものについても実現をして、人々の暮らしをよくしていけるのか、水戸市を発展に導き出していけるのか、今日は担当者も後ろにいますので、いろいろ工夫をさせていただければというふうに思っております。

限られた時間ではございますが、今回、皆さんの最終報告ということでありますので、有意義な時間にしていきたいと思っております。また忌憚^{たん}のない御意見をいただければというふうに思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

冒頭、まず、私のほうからは、以上でございます。

○司会

では、ここで、水戸市の出席者を紹介させていただきます。

市政モニター担当部署である市長公室みとの魅力発信課市民相談室職員一同でございます。

また、市政モニターの皆様の提言に関わる関係各課長等も同席させていただいております。

出席課名につきましては、お手元の座席表を御確認ください。

市の出席者は、以上でございます。

よろしくお願いいたします。

続きまして、本年度、市政モニターの皆様が作成した提言書を、代表の市政モニターの方から、市長へ提出していただきます。

それでは、〇〇様、前へお願いいたします。

○市政モニター代表

私たち市政モニターは、テーマである「水戸市が皆から選ばれるまちづくり」について、この1年間、研究してきました。

多くの人から選ばれるまちをつくるためには、まずは私たち一人一人が理想とするまちを考えるとところから始めました。

また、複数回にわたる会議で、市政モニター同士、意見交換を行い、考えを深めていきました。

今回、この活動の成果を提言書としてまとめましたので、お受け取りください。

〔提言書手交〕

○高橋市長

しっかり精査させていただきます。

ありがとうございます。

皆さん、ありがとうございました。

○市政モニター代表

私たちの提言が、少しでもお役に立てば幸いです。

よろしくお願いいたします。

○高橋市長

ありがとうございます。

○司会

それでは、市政モニターの皆様から、市長に対して提言の発表を行っていただきます。

発表の順番は、提言書の記載順で行っていただきます。

発表時間を一定程度過ぎた場合は、こちらでベルを鳴らしますので、ベルが鳴りましたら、速やかに発表をまとめ、終了していただきますようお願いいたします。

それでは、「妊活世代から孫活世代まで安心して暮らせるまち」に関する提言について、順に発表していただきます。

それでは、〇〇様、お願いいたします。

グループ1「妊活世代から孫活世代まで安心して暮らせるまち」

【提言1】活気ある教育を選択できるまち

○発表者1

よろしく申し上げます。

提言書は1つ目で、4ページからです。

提言書の内容は、「活気ある教育を選択できるまち」です。

私の理想とするまちは、市内だけではなく、市外からも子どもたちが通いにくる市を代表する小中学校があることです。

国立・公立・私立の学校がそれぞれ優れた特色があることが示されています。

子どもたちは、自分が興味のある分野を極めるために自由に学校を選択できます。

これらの学校へ進学を希望している家庭のために、入学前説明会が行われています。場所は弘道館です。

ブースに分かれており、興味のある場所に移動して各学校の話聞き、PTA活動、通学方法や特色を知ること、入学前の親御さんとお子さんが抱える不安の軽減につながります。

市内の学校に通う全ての子どもたちは、課外授業にて野菜を育てたり、食育について学ぶ機会があり、これらで収穫した野菜を給食の食材として使うことで食育と農業を学びます。そうすることで、生産者への感謝の気持ちにつながります。

2023年度より、水戸市立小中学校が学校給食費の全額無償となりました。しかし、公立学校以外の学校では給食センターが利用されていません。

具体例で言うと、私立小学校では独自のランチプレート配給にとどまっています。ランチプレートのイメージとしましては、スライドの下のほうの画像です。ここにはスープや汁物がありません。また、この物価高により、先月も1食当たり50円の値上げがあり、家計負担がとても大きいのが現状です。

ですので、市の全体で水戸市に通う全ての子どもたちにこの食育プログラムや給食を提供することで、水戸市の子育て支援と教育のイメージアップにつながると私は考えています。

先日伺った学校給食調理場の米粉パン、とてもおいしかったです。

提供条件としましては、第2部の43ページを御参照ください。

設置区分はあるものの、都市の差別化を図る上で、国立・私立学校の存在は重要です。公

立の学校だけではなく、国立・私立の学校への介入が水戸市の教育水準の向上をつくり上げていくのではないのでしょうか。

実際、私の周囲で、県南のつくば・取手方面のほうに、高い教育を求め、水戸市から転出した友人たちがいます。とは反対に、こどもの教育のために、郡山市、いわき市、日立市などの遠方より単身赴任されて水戸市内の学校に通学している事例があります。

これらから、公立だけではなく、国立・私立の学校の門戸を広げることにより、国立・公立・私立の枠を越えた教育を実現できる自治体になると期待できます。

給食をきっかけに、活気のある教育を選択できる魅力ある都市に育ってほしいと考えています。

最後になりますが、水戸市の御活躍、御発展をお祈りして、発表を終わらせていただきます。

御清聴ありがとうございました。

○司会

ありがとうございました。

続きまして、〇〇様、〇〇様、お願いいたします。

【提言2】負担のない出産・子育てができるまち

○発表者2

私たちは、2人で一つの提言書を提出いたします。

提言書44ページを御覧ください。

私たちの提言は、「負担のない出産・子育てができるまち」です。

このまちでは、産後から乳幼児期までの切れ目なく支援が受けられるまちです。支援を一体化した施設があり、そこでは産後ケアが受けられたり、一時預かりができたり、遊べる場所もあります。ここに来れば安心して支援が受けられます。

移住してきた家族も孤立せず、また、どんな家庭環境であっても支援を受けられる仕組みがあるので、無理をせず子育てができるからこそ、水戸で子育てしてよかったなと思えるので、皆から選ばれています。

このまちの魅力は、誰もが安心して子育てができ、希望した人全てが支援を受けられるまちです。

課題としましては、産後から乳幼児期までの多面的な問題に対応できる環境をつくるため、総合的な子育て支援拠点の施設をつくるということです。

取組なのですが、今の現状では支援が分散しておりますので、支援を受けにくいという問題もあります。なので、支援を一体化して、誰でも来て、ここに来れば安心できるよという場所をつくるのが取組です。

その中で、すごく理想的な施設がありますので、45ページを御覧ください。

埼玉県深谷市にございます「こどもふっかパーク」というところなのですが、これに産後ケアの施設がくっいたらすごく理想的だなとは思っています。

ここからは私が心の底から言いたいことなのですが、私、今、3歳の息子がおりまして、産後ケアを受けたいなと思っていたのですが、水戸市の産後ケア事業は、提言書47ページを

御覧ください。

この事業の対象者のところに、水戸市に住民票があるということと、かつ、下記に当てはまる産後1年未満のお母さんとお子さんということで、1番の御家族などから家事や育児の支援が受けられない方というところで、私は実家がすぐ近くなので、そこで弾かれてしまって、「ああ、受けられないんだ」という現実がございまして、支援があるのと、専門的なプロの方に頼るといのはまた別な話なのではないかなというところで、そのあたりが受けられないのがとても悲しかったなという産後の記憶がございまして。それに関しては、提言書46ページを御覧ください。茨城県の中で、つくばみらい市だと、住民票があって、1歳のお子様の誕生日まで誰でも受けられるということなので、「こどもふっかパーク」とかはちょっと理想が高過ぎるのかもしれないのですが、この誰でも産後ケアを受けられるよということだけでも実現できたらなと提言させていただきます。

お願いいたします。

○発表者3

続けて、市政モニター、〇〇と申します。

私は、神奈川県出身で、大阪出身の夫と2歳の息子の3人家族で暮らしております。

少し自身の昔話をさせていただきます。

約3年前、夫の転勤により、岡山県倉敷市から水戸市のほうへ転入してまいりました。引っ越し準備中に妊娠が分かり、妊婦健診先を探すところから水戸市の生活が始まりました。

私は両親と死別しているため、出産は義理の実家へ里帰りさせていただきましたが、出産後は水戸に戻り、生まれたばかりのこどもと2人きりの生活になりました。

夫は仕事が非常に忙しく、帰宅が週に1日ほどでした。頼れる身内も近くにおらず、24時間、完全なワンオペ生活でした。

夫不在のまま、生後5か月を過ぎた頃、ああ、このままでは心身ともにもたないと限界を感じまして、市の子育て支援課へ相談いたしました。しかし、多くの一時預かりは生後6か月以降でないと利用できず、また、産後ケアも里帰り出産の場合や生後3、4か月を過ぎた場合は利用先がないということでした。助けを求めたはずが、かえって強い孤独と不安を感じたことを今でも覚えております。

水戸市は移住促進に力を入れていると感じますが、移住者の多くは核家族で、頼れる身内が近くにおりません。出産直後から乳幼児期まで切れ目なく頼れる場所と人があることが安心して暮らすための前提ではないでしょうか。

そこで、私は、深谷市の「こどもふっかパーク」のような子育て支援施設の整備と、あともう一つ、その中の一時預かり事業の充実が必要ではないかと考えます。

資料添付が間に合わず、大変恐縮ではございますが、口頭で御説明いたします。

現在、市内の主要な一時預かり施設は予約直後に枠が埋まってしまい、利用したくても全くできない状態になっています。未就学児の預け先がないことは、保護者にとって大きな不安材料です。

受入枠を増やすには、施設だけでなく、人材の確保と定着が不可欠です。その一つの方法として、大阪市などが実施している子育て支援員研修の活用を提案いたします。

この研修により、ブランクのある保育士やシルバー世代も現代の子育てを学ぶことができ、

支援の担い手として活躍ができます。

さらに、修了者の処遇改善を行うことで、安心して働ける環境づくりにもつながると考えます。

子育て支援は特別な支援ではなく、孤立を防ぎ、産後うつを予防し、定住につながる必要な支援です。水戸市で子育てしてよかった、そう心から思える人が増えることが水戸市が選ばれるまちにつながると確信しています。

御清聴ありがとうございました。

○司会

ありがとうございました。

続きまして、〇〇様、お願いいたします。

【提言3】もう一人産めるまち

○発表者4

提言書の9ページ、48ページを御覧ください。

私が理想とするまちは、「もう一人産めるまち」です。

この提言を思いついた理由は、もう一人産めるか考えたときに、不安が大きく、踏み切れなかったからです。

どうすればその不安がなくなるか、考えながら書きました。

私の理想とするまちは、出産の不安が少なく、複数の支援の手を借りながら子育てできるまちです。

高齢出産や無痛分娩対応の産婦人科、様々な教育方針の保育園・幼稚園、こどもと遊べる公共施設、日中勤務中心の職場、お店やスーパーが充実しています。

このまちの人々はどのような出産をしたいか考え、こどもを預けるときは、教育方針やこどもの性格に合わせ、自分の基準で選んでいます。

産後働くときも、日中のみや短時間勤務、休みやすい職場があり、ライフスタイルに合わせて働いています。

休息時間が欲しいときには、ファミサポや託児サービスを利用しています。

出産も子育ても仕事も、自分に合った選択ができるので、安心して暮らせます。

これにより、気持ちに余裕が生まれ、もう一人産みたいという希望が持てるので、みんなから選ばれています。

この理想とするまちの魅力は、子育てと家庭、仕事を無理なく回せて、もう一人産みたいという希望を持てるまちであり、これを目標とします。

この目標達成への課題と取組を読みます。

課題①自分に合った産院、保育園、幼稚園を選べるようにするため、市内の施設を維持する。現在の施設数に満足していますが、少子化・物価高騰の影響を考えると、減少が見込まれます。そのため、施設に公費を投じ、統廃合を防ぎます。

②親の休息時間、ここは、こどもと離れる時間という意味で使っています。これを確保するため、保育園を利用しやすくする。保育利用申込条件から、月64時間以上という就労時間の制限をなくします。これにより、こどもを保育園に預け、扶養内で収まるように短時間労

働をすることができます。

なお、月64時間未満を証明する書類を提出不要にするなど、手続きも簡素化します。

③子育てとのバランスを取りながら働くため、短時間・少ない日数で働ける職場が少ない状況を解消する。

次に取組です。子育てしながら働く女性のキャリアを、就職→産休・育休→時短勤務→復帰と考えると、人員が不足するのは産休・育休、時短勤務のタイミングです。その状況を穴埋めするように、0-3歳児の親を一時的に雇用する企業に対し優遇制度を設けます。

制度としては、市がそうした企業を認証し、企業がガイドブックなどで周知を図ったり、モデルケースとなる場合には報奨金を与えるなどし、働く環境をつくります。

これにより、私の理想とするまちになると考えます。

以上です。ありがとうございます。

○司会

ありがとうございました。

続きまして、〇〇様、お願いいたします。

【提言4】すべての子育て世帯が過ごしやすい居場所があるまち

○発表者5

提言書の51ページを御覧ください。

提言4「すべての子育て世帯が過ごしやすい居場所があるまち」なのですが、まず、このテーマを決めたきっかけを皆さんと共有したいと思います。

雨や猛暑日の祝日、安価で遊べる場所がこの水戸市内にはありません。

具体的に言うと、水戸市立の子育て支援センター「わんぱく・みと」、「はみんぐぱく・みと」は、祝日はどちらも閉館日となっています。

では、祝日に水戸市内の室内遊び場で3時間過ごすとして、我が家はこども1人、大人2人なので、この計算にします。内原イオンに行った場合6,300円、笠原町のとある遊び場に行った場合2,150円、茨城町の、イオンタウン水戸南の遊び場に行ったところ3,400円、3時間でこれだけかかります。これだと気軽にまず行けません。うちは一人っ子ですが、兄弟がいたらなおさらです。

このことから、休みの日に家族で過ごせる居場所が水戸市内にはないというのが私の中で大きな問題だと思っています。

これを感じたきっかけがありまして、友達家族と森林公園で遊ぼうという日があったのですが、当日になって雨になってしまい、急遽、この中の一つに行くことになったのです。中には兄弟がいる子もいまして、ちょうど先週の金曜日に保育園で会ったときに、「あその遊び場、高かったね」と5歳の女の子に言われて、「私がお金払ったんだよ」とも言われてしまったのです。きっとお年玉だとは思いますが、これは誘えないなというふうに私は感じてしまって、なるべく早くこの問題は解決してほしいなと思っています。

ここからは資料を見ていただきたいのですが、私が考える理想のまちは、障害や難病の有無にかかわらず、未就学児や小学生のこども、その養育者が安心して過ごせる居場所がたくさんあるまちです。

土日や祝日、夏休みなど、長期休暇のときに、子育て支援センターや、小学校や、もっと大きい体育館もこのまちにはありますので、そこで子どもを遊ばせたり、周囲の目を気にせず語りたいときは、市民センターが各学区にもありますので、そういうところで個室を利用して過ごしたりできます。

共通の子育ての話をしたときは、子育て世代の集まるイベントに参加したり、養育者が病院に行きたいときは、託児ボランティアに頼んだりもできます。

このまちだったら、子育てによる閉塞感や孤独感を感じることなく、安心して過ごすことができるので、皆さんから選ばれているまちだと感じています。

では、課題なのですが、天候に左右されず、いつでも子どもが遊べる場所がないので、まず、「はみんぐぱーく・みと」や「わんぱーく・みと」を、ほかの日曜日や土曜日と同じように、同じ時間、開けていただきたいなと思っています。

遊ぶ場所を決めるときに、この「はみんぐぱーく・みと」や「わんぱーく・みと」が幼稚園・保育園の親たちの間では話題にならないのですね。どうしても「ハレニコ」とか、もうちょっと大きいところになってしまうのですが、実際、3歳のときに子どもを連れて行ってみたら、2階もあって結構広いのです。なので、もうちょっと大きな子たちでも遊べるよということをもうちょっと周知していただきたいなと思っています。

あとは、ほかの体育館も開けていただいたり、市民センターが、今、サークルとかでないと思えないので、それももうちょっと家族連れに開いてほしいなと考えています。

身近なところに居場所ができるように願っています。

以上です。

○司会

ありがとうございました。

続きまして、〇〇様、お願いいたします。

【提言5】まちごと家族のまち～頼れる人がそばにいる子育て～

○発表者6

では、このセクションとしては最後になります。

よろしく申し上げます。

私は、水戸出身ではありません。大学進学を機にこの水戸市を中心に生活するようになって、1回は民間企業に入りました。私、出身、地元が北茨城市なのですが、そこを離れて、今は水戸を第二の故郷として暮らしています。

ここで結婚して、私はここで働くために起業するという手段を取りました。子どもを育てながら、今、このまちに暮らしています。

このまちを第二の故郷として根を張る人間として、今日、提言をさせていただきたいと思っています。

メインは提言書14ページになります。

この市政モニターのフレームを通して、目的、課題、手法とか、いろいろ分解しながら、学ばせてもらいながら考える機会をいただきました。

現場感のない部分も正直あったのですが、やっぱりいろいろ私がシンプルに思うこと、今

日はあえて凝り固まって、いろいろなエビデンスがとか言うのではなく、率直に一市民として思ったシンプルなことはとてもシンプルで、私は自分で雇用をつくるという方法を取りましたが、雇用がある、旦那さんが働ける、女性もキャリアがちゃんとあるという前提で、安心して暮らせるまちであってほしい。

こういうふうに月並みに言うのは簡単なのですが、安心ってどこから生まれるかではない、というのは、今、たくさん制度とか補助金とか手法の話も出てきましたが、制度とか補助金だけでは生まれない、このまちに住んでよかったと思える理由は、私は、最後は人なのだと思います。人を育てる、これは、市長の言っていた短期的なのか中長期的なのかで言うと、今日から、明日から、マインドを変えられるところもあれば、人を育てるってめちゃめちゃ難しいことだと思うので、めちゃめちゃ長期的になりかねないことだとも思うのですが、この人にフィーチャーした話を提言させていただきたいと思います。

「まちごと家族のまち」というところで、端的に言いますと、このまちには、市のLINEとか、図書館、わんぱくとか、地域拠点を通じて相談できるコンシェルジュがいるというのが提言のメインどころになります。

活動は、オンライン、オフラインで相談できる体制がある。

では、何でこの提言をしたかというところで言うと、課題の中で、コンシェルジュ側に相当するなと思ったのは、もう既にこの水戸に長らく住んでいてとか、ママさん、ちょっと子育て上がったという言い方が正しいのか分からないのですが、少し自分の子育てには余裕ができて、子育ての知見がある方。でも、そういう方って、見知らぬ他人にまでお節介できるほど関係性があるわけではない。

あとは、地域によくいらっしゃる、昔は先生をやっていておじいちゃん、おばあちゃんがお節介して、ちょっと塾の代わりみたいなことをやってみたいけれども、自分で塾を開くほどのノウハウはないみたいな方がコンシェルジュに相当するのではないかなと思う。そういう人が地域に手を差し伸べられる、その一歩を踏み出す、そういうコンシェルジュという仕掛けがあるのだよというものがないので、なかなか地域との接点が取れない。

また、利用者側で言うと、一時預かりではないですが、子育て支援センターとかを活用して、様々な仕組みがあると思いました。あると思ったのですが、一回預けてみて、ここから先何かあったときに、相談させてくださいとか、時間外だけどもどもがこうなっちゃったというときに、119番ではない、お父さん、お母さんではないところで、この施設にちょっといいですかと相談できるかという、そういう関係性はちょっと育てていないと思いました。制度とか拠点はあっても、もう一歩、こどものこととか、ちょっと不安なのです、ちょっといいですかと言えるような関係性までは育てていないなという現場感から、このコンシェルジュ制度ということを挙げさせていただきました。

中ほどにある「市民の活動について」というところで、「お節介な関わりを通じて」と書いてあるのですが、このお節介というのは、行政さんからすると、どのぐらいやってとか、リスクヘッジとかって、すごく中途半端な、ふわっとした言葉だと思うのです。でも、やっぱりそこを、制度とかもうまく乗り越えながら、お節介に関わるというところできると、制度とか仕組みで選ばれるのではなくて、何かきっかけがあってこのまちに来たけれども、「第二のふるさとだわ」と本当に思える。仮にこの水戸を旦那さんの仕事の都合とかでまた

転勤になったとしても、また戻ってきたい、また関わりたい、何かしらで関わりたいと思う、そういうまちになるのではないかなと思います。

提言3に、「もう一人産めるまち」というすごく生々しいタイトルがあって、私、実は、年末にもう一人こどもがいることが分かって、めちゃめちゃつわりが辛いのですが、私のマンションを出てくるときに、「大丈夫？」と声をかけてくれる管理人さんとか、7階か8階ぐらいまであるのですが、何階かの人顔見知りになって、家族でもないけれども、「大丈夫？今日は外出られるの？」と声をかけてもらいながら、朝、出てきます。こういうのがあるだけでも、ああ、この付近に住んでよかったなと私は単純だから思える。制度の拡充とか、整えなければいけないところももちろんあるかもしれないのですが、私がもう一人産めちゃうかもと思った理由はやっぱり人で、通勤1時間以内にまだまだ車に乗れる実家のお父さん、お母さんがいて、あと、家族のような人がマンションの中において、あとは、私は自分で仕事も選んでいるので、自分の仕事をやりながら、こどもを見ながら、社員にも見てもらいながらという生活ができています。ここまであって初めて、「ああ、何かできるかも、自分のキャリアも諦めずに、特に女性なら」というふうに思えるのではないかなと思ってこの提言をさせていただきました。

私の提言は、子育て・地域つなぎコンシェルジュという形でまとめましたが、本質はこの役職名ではないと思います。まちごと家族のような関係性をどうやって育てていくかと考えたときに、冒頭、市長がお話しされたように、子育て支援を強めれば、高齢者から別の声上がる。限られた予算の中でバランスを取るのには本当に難しいことだと思います。だからこそ、私は、奪い合う構造ではなくて、支え合う構造、子育て世代か、高齢者かとか、私がか、俺がかではなくて、みんなで生きているのだから、本当に共生しようよという感覚を持てるかどうかが一番大事なのではないかなと思います。

以上です。

ありがとうございました。

○司会

ありがとうございました。

以上、「妊活世代から孫活世代まで安心して暮らせるまち」に関する提言の発表でした。

それでは、ここで、発表を基に、市長と懇談をしていただきます。

よろしく願いいたします。

○高橋市長

皆さん、ありがとうございました。

大変参考になったし、ちょっとぐさっと刺さるものもございまして、本当に反省もさせられました。本当に申し訳ございませんでした。いろいろと皆さんに御苦労もおかけいたしました。

子育て支援については、3つの柱を設けていて、保護者の皆さんの経済的負担の軽減であるとか、相談支援の体制の強化であるとか、それから、こどもの居場所づくりであるとかということなのですが、最近思うことは、今日もそうなのだけれども、この3つのうち、最初の一つが一番言われていたのが、最近全然言われなくなったということなのです。この経済的負担の軽減というのがそう言われなくなった。給食費を無償化して、令和8年4月からは

第二子の保育料の無償化をするので、大体言われなくなっているのです。全然ではないけれども、もちろん、言われたらきりが無い話なのだけれども、言われなくなってきた。

やっぱり言われるのがまさに今日の2つなのです。相談支援体制の強化とこどもの居場所づくり、これが今、結構言われるようになってきていて、特に産前産後の皆さんのお気持ちは十分私に刺さりました。今、担当も来ていると思いますので、どういうふうに対象を拡充したり、あるいは、質を向上させたり、あるいは、拠点を設けたりできるかということですが、先ほど言った深谷市のあのようなものをつくるとなると、恐らく2桁億円がかかる話になってくるので、今あるものをどういうふうを活用していくかということなのだろうなというふうに思います。

あるとすれば、わんぱく、はみんぐぱくの拠点の機能を強化するという。それから、令和5年に、赤塚にもう一つ、子育て支援センターの「あかしあ」といういきいき交流センターをつくりました。いきいき交流センターは高齢者のためだけだったのだけれども、ここはあえて、子育て支援機能を設けたいいきいき交流センターをつくらせたのです。

私も30年前から市議員とかをやっていて、水戸市の反省は、高齢者のための施設はいっぱいつくってきたのだけれども、こどものための施設をつくっていなかったということ。例えば、児童館は1個もないのです。ちょっと特殊につくったものが平須にあるぐらいです。

そういうこともあって、これはまだちょっと知られていなくて、皆さんにも周知していかなければならないのだけれども、始まったのはもっと早く始まっていますが、去年から34か所の市民センターで「こどもスペース」が始まったのです。ここは、親御さんが子どもを連れてきて、自由にそこで何をやろうと、限られたスペースにはなってしまうのだけれども、そこでおしゃべりしようと、本を読もうと、ゲームをやろうと、別にどうぞ御自由というスペースを設けさせていただいて、去年の夏休みからは全ての34か所でオープンさせていただいて、まだ周知が足りていなくて、いっぱい利用しているところと、ほぼほぼ利用されていないところと、ちょっと温度差は地域によってあるのですが、周知をさせていただいて、ちょっと遠いけれども、空いているところにふらっと行ってもいいように、別にこの学区だからここを使ってはだめというルールは全然ないのです。別にどこの市民センターを使おうとも自由なのです。必ずしも自分の家の近くでなければだめだということではないので、そういうところも周知をしていかなければならないなと思っています。

あと、これから南部地区、笠原地区のあのエリアになると思うのですが、図書館を1つ増やすことになるのです。今、基本構想までいっているのですが、あちらは人口が非常に増えているものですから。

そこも、単なる図書館ということで、知の拠点ということで終わりにすることではなくて、子育て支援機能であるとか、あるいは、高齢者サロンのような多世代交流であるとか、今の問題・課題を解消できるような機能をその図書館の中に持たせようということで、その基本構想を練ってもらっています。それぞれの分野の方々に検討委員会に参加させていただいて、子育てとか、高齢者とか、地域コミュニティとか、あるいは、ICTとか、いろいろな方々に参加させていただいて、今、基本構想を練らせていただいているのです。そういったところにも子育ての新たな相談機能拠点というものをまたつくれたらいいかなという思いを持っています。

深谷市のような、そこに1か所だけドーンというのではないかもしれないけれども、それぞれに分散はするかもしれないけれども、ある一定の機能を持たせて、ワンストップまではいかないかもしれないけれども、おおよそのことは、そこで、相談とか支援とか、いろいろな御案内ができるというような機能は持たせていきたいなと思っています。

それと、先ほど一つあったこどもの全天候型の遊び場なのですが、そこがネックで、つくるとなると数億円のお金がかかってしまうということなものですから、今、どちらかという親御さんの経済的負担の軽減を優先にやってきて、大体これで20億円ぐらい新たにかかっているのです。給食費の無償化とか、保育料の無償化とか小学校・中学校の入学金の3万円のお祝い金だとか、これだけで毎年20億円のお金を用意しなければならないのです。そういうソフト事業のほうをずっと行ってきたものですから、なかなかハードをつくれるお金がなくて、ちょっと苦慮していたのですが、相手があるものだからまだ具体的に申し上げられないのだけれども、民と官の連携事業で何とかなりそうです。今、何とか交渉がおおよそまとまりました。2年後ぐらいに開館できるかなということで、場所を民間に提供していただいて、お金を出し合いながら整備をして、一部、お金を取らせていただいても、それは何百円かの話ですが、ほぼほぼ無料で遊んでいただけるとか、そういうスペースを2年後ぐらいをめどにつくろうと、今、大体話がまとまってきました。

あとは、今年の夏休みぐらいには、市役所1階の多目的スペースを利用して、こどもの遊び場を、夏休み中だけ、暑いときだけ提供しようということで、500万円ぐらいの遊具を買って、市役所1階南側の多目的スペースを、1か月ちょっとなのですが、まず8月の暑いときだけでも提供しようと思っています。本当はもっとやりたかったのだけれども、1階の多目的スペースはものすごく人気があって、いろいろな会の展示会をやるとか何とか、予約が埋まってしまっているのです。令和9年度以降は逆にうちががっちり押さえて、できれば7月、8月、9月ぐらいはそこで遊べるようにしたいなと思っていますが、利用もいっぱいあるものですから、いろいろな団体の方々にちょっと御遠慮いただくようなことになって、またそうすると、高齢者の展示会とかをやっているものですから、こどものために俺たちははじき飛ばされるのかと言われるものですから、そこをバランスよく、こどものほうを中心に、市役所1階の多目的スペースに自由に出入りできるような形でやっていきたいなと思っています。

そういうことで、相談支援体制の強化の話は、いろいろ皆さんの話を聞きましたので、ここも、人員体制とか、場所の確保とか、ある程度、財政的な部分も考慮していかなければならないのですが、保育料の第二子の無償化がこの4月から始まることで、経済的負担の軽減の目玉は大体終わります。細かいところは、もう少し、医療費のことだとかあるので、それはやるのですが、今まで経済的負担の軽減のほうにほぼシフトしていたところを、そういった相談支援体制の強化のほうにシフトしながら、対象者の拡充であるとか、あるいは、人員体制の強化であるとか、あるいは、新たなサービスをつくることとか、令和9年度以降の話にはなってしまうのですけれども、そんなことに歩を進めていきたいなと思っています。

令和8年度は、目玉として、保育料の無償化ということをやりますが、その一方で、もう一度、この提言書を精査させていただきながら、どこまで拡張できるか、あるいは、どこを拠点にそういうことをやるかということを検討して、令和9年度あたりから、どこまで拡

充できるか、ちょっと今、ここでは申し上げられないのですが、そういうことをやっていきたいなと思っています。

産前産後の皆さんの精神的な御苦勞も含めて、お話を伺いましたので、改めてそこを精査させていただければなと思っています。

それと、一番最初の教育なのですが、言われていることはおっしゃるとおりです。私も私立の学校の経営者といろいろ懇談をするのですが、例えば、銚田市などでは、給食費というか、お弁当代というのかな、3,000円か4,000円かよく分からないのですが、「銚田市は、うちの学校に通っているこどもに対して給食費という形で出してくれているんだよね。水戸市も出してくれると有り難いんだよね」みたいなことを言われるのです。ただ、どうしても、公立小中学校の給食費の無償化に相当力を入れて、あれだけで大体15億円ぐらいかかっているものですから、それに力点を置いてしまっていて、なかなか私立や国公立のほうまで回らなくて申し訳なかったのですが、水戸市で私立の小中学校とか国公立の小中学校があるというのは教育の魅力なので、私たちとどういう関係が構築できるかということは、いろいろと連携していきたいと思います。今、ここに壁をつくっていて、附属さんとは同じ国公立の立場なものですから連絡を取れるのですが、ほかの私立のリリーさんとか、英宏さんとか、部署が違うものですから、どちらかという茨城県の管轄になってしまうものですから、そんなに連携を取ってはいないのですが、どういう連携ができて、私たちのどういう支援があればそういう特徴ある教育等ができるのか、どういう連携・協力ができるのかという、そういった関係を少し構築していければなと思っていますので、提言を踏まえて検討させていただきます。

あともう一つ、提言とは別個の話になってしまうのだけれども、魅力ある教育とか活気ある教育を選択できるという意味において、一つ、やることがあるのです。それは、どちらかという、元は小規模校の生き残りのために始まるものなのですが、まさにこの活気ある教育を多様に選択できるようなことをこの4月1日からやっといこうと思っているのです。もともと私が学校の廃校というのを絶対にやらないという主義で、学校を廃校すると、地域のコミュニティが失われて、悪循環を招くので、今から15年前に山根小学校を廃校にしたきり、私は全部生き残らせてきたのです。しかも、小規模校でも、改修事業をやりながら、逆にきれいにして、ここまで生き残らせてきたのです。国田義務教育学校、柳河小学校、上大野小学校、大場小学校、下大野小学校の5つあるのですが、危機的な状況なのです。けれど、これを廃校にすると悪循環を招くので、私は廃校にさせないのです。それで、小規模特認校にして、特徴ある教育をして、ほかの学区外からこの教育を受けたいのだったらこの学区に来てくださいということで、それで生き残らせてきたのです。国田義務教育学校はそれで成功したり、ほかの学区から入学してくださるおかげで、学校のほうが活気づいてきているのですが、ここにきて少し横ばい、ないし停滞してきてしまっているのです。これを何とかしなければならぬなと思っています、この4月の新学期から、保護者に対するインセンティブを提供させていただいたり、あるいは、通うのが大変だということであれば、独自のスクールバスを走らせたり、それから、親御さんに交通費を支給させていただいたり、あとは、教育の中身も、この学校はICTでいこうとか、この学校は理科教育でいこうとか、いろいろな体験学習をもっとやっといこうとか、地域の協力を求めて変わったことをやっといこう

とか、あるいは、健康・体育プログラムに特化したことをやっていこうとか、そこを小規模特認校の生き残りと同時に、まさにおっしゃった活気ある教育を幅広く選択できるように、それを小規模特認校を舞台にやっていきたいなと思っているのです。

ただ、どうしても遠くから通うということが出てくるので、どうしても保護者の方の送り迎えになってしまうのです。そこをどういうふうにしたらいいかというところも進めていかなければならないのですが、とりあえず、今のところはお金で解決しようとしている。交通費を渡すから、ガソリン代を渡すから、ちょっとこれで通ってくださいとか、一部、それができないところがあって、スクールバスを走らせるところもあるのですが、そういう選択肢の幅を、小規模特認校を舞台に特徴ある教育をやっていきたいなということで、まずは第一弾、この4月、新学期から5つの小学校を舞台に始まります。

もう説明会等も始まっているのですが、しっかり啓発をして、こういうところで教育を受けさせたいという親御さんに対して、そういった選択肢を提供しようかなと思っています。

あと、最後に話がありました、コミュニティ、人と人との交流なのですが、ついに水戸の町内会加入率が48%になりまして、半分以上の人が地域のコミュニティの中で生きていない人なのです。地域のコミュニティよりも、自分のライフスタイルとか、価値観も多様化していますから、特に地域のコミュニティの中で生きていけなくなっているやという人が半分以上になってきてしまったのです。

それは、一つは高齢化です。高齢化で町内会の付き合いができない。だから、今までずっと付き合いただけけれども、本当は地域のコミュニティの中で生きていきたいのだけれども、事情があって町内会から脱会しなければならないという方です。これはやむを得ない。

だけれども、もう一つは若い人なのです。今、〇〇さんがいいことをおっしゃってくれたのですが、若い方々がそういう価値観を持ってくださっているのって有り難いなと思ったのです。

逆に、今、私たちが苦慮しているのは、若い方々がそのコミュニティを求めていないわけです。とにかく町内会に入るのが嫌だと。地域のいろいろな声かけとか、そういうのが嫌だ、面倒くさいということで、若い方々がどうしても地域のコミュニティを拒否されるものですから、何かいい案がないかなと思ってやっているのですが、町内会に入った人にはカードを渡して、いろいろなスーパーマーケットで割引を受けられるようなカードとか何かをやっているのですが、歯止めはかかっているのかもしれないのですが、新規の若い人たちの加入促進にはつながらないのです。

だから、若い方々が、今、〇〇さんがおっしゃったような隣近所の声かけとか、助け合いとか、そういう暖かみのあるコミュニティの中で、必ずしも町内会に加入しなくてもいいし、町内会の役員をやるのが嫌だ、会費を払うのが負担だとおっしゃるのだったら、それはそれでいいのだけれども、せめて助け合ったり声をかけ合ったりというコミュニティの中に入っただけであればうれしいなと思っていて、そういった文化をどうやって醸成したらいいかという決定打がなくて、議員さんからも何とかせよと言われるのですが、どうしても行政が人を雇って、行政の力で町内会の活動をやってやれみたいな、結局そういうところに帰着してしまっている。それでは元も子もないではないかと思うのです。

今、正直申し上げて、そこは苦慮しているところなのです。特に、若い人たちにそういう

コミュニティを拒否されているということで、〇〇さんのような方々がいっぱい増えてくれれば有り難いなというふうに思っているのですが、そういうコミュニティをどういうふうに文化として醸成したらいいかというところで悩んでいます。

私は状況説明だけで終わりましたが、こういった状況の説明をさせていただいた上で、何か皆さんのほうで補足的な要望がありましたらお受けさせていただいて、またこちらのほうで参考にさせていただきますが、いかがでしょうか。

○市政モニター

最後に文化のところがあったので、若い人は町内会に入りたいのではなくて、私が思うにですが、意味のないことはしたくないというコスパ・タイプを求める世代なので、意味があって、役に立てる実感があれば、PTAもやります、推し活もやります、オンラインサロンも入るし、ボランティアだってするということで、そこが納得すれば動く世代なのだということをつまえてコミュニケーションするといいいのかなというのが仮説としてありますというのが、端的に言って。

最後、お伺いしたいのは、いろいろな実務報告に近いようなところを聞かせていただきました。でも、仮に市民に納得されなくても、誤解を生んででも、子育てという文脈において、これだけは市長が市長であるうちに成し遂げたいのだということがあったら、最後、お伺いしたいなと思って、質問させていただきます。

○高橋市長

私は、まずは、保護者の経済的負担の軽減はしっかりやっていこうということで、そこを一丁目一番地の中の一丁目一番地にして、おおよそここは決着をつけてきたので、次にやろうとするのは、皆さん、医療費を最初に600円払っていますよね。私たちは医療費無償化という言葉ではないのです。医療費の助成制度と言っているのです。だから、これは所得制限なしに、全ての18歳まで助成制度を拡充したのは実は私なのです。次は、できればこの600円もなくすということで、全て無償化したいなというのが私の思いなのですが、ただ、世間の話の聞いていると、そこって実はあまり今は言われていなくて、まさに今言われたのが、子どもたちの活動する居場所、遊べる居場所、そして、いろいろな問題、あるいは、困難を抱えている御家庭に対する支援等なのです。

だから、私は、ここ何年か頭を切り替えさせていただいて、子どもたちが活動・活躍できる居場所をしっかりとつくりたいというのがまず、今、第一にあります。そこで、今、子どもの居場所を、無理無理、それこそ町内会の人をお願いをして、子どもスペースをつくらせていただいたり、それから、今、子どもの遊び場もやっと民間と何とか合意形成ができて、場所も確保できたり、あるいは、図書館の中でそういった場所をつくらせたりということをやりたいなと思っています。

つまり、相談支援体制の強化も、保護者負担の軽減も、保護者目線なものですから、子ども目線に立って、「子どもまんなか社会」と言っている以上は、子どもたちがしっかりそこで遊び、学び、活動できるという場所をもっと提供していきたい。これが今、私が一番求めるところです。

併せて、今日、お伺いしましたので、まだまだ足りていない相談支援体制をしっかり強化していきたいなと思っています。

○市政モニター

ありがとうございます。

○市政モニター

市長のお話をいろいろ伺えてよかったと思っています。

市民センターの件なのですが、市民センターを開放して、小学生の居場所をつくっているのは、茨城新聞にも載っていて、すごく水戸市は先に進んでやっているなどというのは、来年、こどもが小学校1年生になるので、すごく心強いと思っているのですが、今は幼児なので、乳幼児の居場所もどうか市民センターにということ、平日の午前とかに、週1回とかで広場とかはあったりはするのですが、もうちょっと拡充してほしいということだけ追加させてください。すみません。

○高橋市長

実は、市民センターの開放は今の話とは真逆で始まったのです。要は、小学生の居場所がないからと始まったのです。

乳幼児は、わんぱく、はみんぐぱく、あかしあでお遊びいただきたい。ただ、さっき言った祝日が休みということについては受け止めさせていただいて、どういうふうに開放していくかということ、ちょっとこちらで検討させていただきたいなと思います。

併せて、今、申し上げた民間等をいろいろ活用しながらやるという場所は、まさに乳幼児から小学生のせめて中学年ぐらいまでは遊べるような多世代にわたるものをつくっていききたいなと思っています。

市役所1階の多目的スペースで8月にやるのは、空気を膨らませてやる遊具を買うのだけれども、あれは乳幼児も遊べるのかな。

○こども政策課

3歳ぐらいからになるかもしれないです。

○高橋市長

3歳ぐらいからかもしれない。本当の赤ちゃんはちょっと難しいかもしれないですが、3歳ぐらいから小学生は遊べるようなところを、試しに8月だけになってしまうのですが、そこから拡充していききたいと思います。そうすると、また2年後ぐらいにはそういうものが民間でできるということなので、そちらのほうにも行っていただければというふうに思っています。

○司会

ありがとうございました。

続きまして、「唯一無二の水戸」に関する提言について、順に発表していただきます。

では、〇〇様、お願いいたします。

グループ2「唯一無二の水戸」

【提言7】地域コミュニティが相互作用しあうコンパクトな範囲でも暮らしやすい水戸

○発表者7

先ほど、第1部のほうのお話を聞いて、私も、実は、北海道出身で、移住者の一人ではあるのですが、結婚・出産を機に水戸市に転入してきた移住者になります。

今回、提言で挙げさせていただいた内容が提言書20ページなのですが、先ほどの市長からのお話とか懇談を受けて、ちょうど町内会というワードが出てきたので、提言の中に町内会のこと言及して書いているわけではないのですが、私が理想とするまちに関しては、それぞれの地域コミュニティが活性化し、相互的に影響し合いながら、コンパクトな範囲でも生活ができるまちというふうに挙げています。

このテーマを選んだ理由としては、実は、自分が水戸市の城東エリアに住んでいるのですが、そこで私の姉がシェアハウスを運営してまして、移住する前につくば市に住んでいたのですが、そのときは看護師の仕事で週2回ほどこちらに来てはいたのですが、そのときにシェアハウスに滞在させてもらったりすることで、シェアハウスの付近の町内会とシェアハウスが関連し合って、その地域コミュニティがうまく作用していたりする事例があって、そこで地域の人と知り合いになったりとか、その入居者さんと結婚して、私はこちらに移住してきたのですが、その後も町内会の人と交流しています。例えば、バーベキュー大会とか、シェアハウスの駐車場で今もやっているのですが、そういうところから地域コミュニティっていいなとすごく感じたのと、水戸市の特徴として、小学校学区に市民センターがあるというのは、ちょっと調べたらほかの都市ではこんなに見られなかったので、そこを再活用して、地域コミュニティ、いろいろな世代の方がつながれるまちができればいいのではないかなと思ひ、今回、課題と取組を考えました。

課題と取組については、提言書57ページを御覧ください。

取組を各世代で分けたので、4つ挙げているのですが、1つ目が「移住者がコンパクトな範囲で住みやすく馴染みやすいまちと感じられる水戸」というふうに挙げています。

いっぱい課題ってあると思うのですが、その中でもすぐに実現できそうなこととして考えたのが、各市民センターに移住者向けに特化したアナウンスコーナーを設けて、そこに1台ずつデジタルサイネージを設置し、情報発信をするということを考えてみました。

このような取組をすることで、移住者が市民センターに来る機会をまずつくるということと、そこから、その地域で、例えば若い人が来たら、若い人が集まっている場所をアナウンスしたり、移住者向けのイベントなどの申込みができる用紙を置いたり、提言書の57ページの写真のところこんなコーナーをつくったらいいのではないかとかも挙げてはいるのですが、そのような形で、馴染みやすい、いい取組をするというふうなことを1個考えてみました。

次、2つ目になるのですが、「若者がコンパクトな範囲でたのしいまちと感じられる水戸」ということで、先ほどの第1部のほうでも、お子さんの支援ということで、私もこどもが1人、もうすぐ2歳になる子がいるので、これは学生のイメージで考えたのですが、飲食可能なフリースペースを市民センターにつくることで気軽に活用できるというところを、1個、課題として挙げています。

課題解決の取組に関しては、市民センターによって大きさもあると思うのですが、幾つかテーブルと椅子を置いて、そこであまり制限を設けずに、雑談もできたりとか、勉強する人がいたりとか、あとは図書コーナーなどを設けて、ゆっくり過ごしたい人は過ごしたりするなど挙げられます。

あとは、「高齢者がコンパクトな範囲で住みやすく暮らしやすいまちと感じられる水戸」

というところに関しては、ここは交通網の整備というところで挙げさせていただいております。

ちょっと駆け足なのですが、最後、「子育て世帯がコンパクトな範囲で住みやすく暮らしやすいまちと感じられる水戸」に関しては、第1部でもあったように、乳幼児のお子さんでも市民センターに気軽に行けるというような取組を課題解決の取組として挙げております。

ちょっと駆け足になってしまったのですが、今回、こんな感じで発表させていただける機会をいただき、ありがとうございました。

以上になります。

○司会

ありがとうございました。

続きまして、〇〇様、お願いいたします。

【提言8】どんな人でも動物や植物を身近に感じられる環境、動物も人間も過ごしやすい街「アニマルタウン」

○発表者8

こんにちは。

提言書8, 61ページを御覧ください。

ほかの皆様の提言とジャンルが違って大変恐縮ですが、私自身、猫を4匹飼っております、動物中心の生活を送っていることもあり、今回のテーマにさせていただきました。

私が理想とするまちの姿は、「どんな人でも動物や植物を身近に感じられ、動物も人間も過ごしやすいまち」です。

このまちでは、屋内型触れ合いパークやドッグラン、動物病院などの環境が整い、市民が日常的に動物と関わることができます。また、人々は、動物と触れ合うことでストレスや不安を減らし、命を大切にする道徳心が育まれます。

このまちの魅力の一つは、市民が動物を通してリフレッシュできるまちであることです。

そこで、今回は、動物に焦点を当てて、まず市民が動物と触れ合う機会を増やし、動物の魅力を実感してもらうことを目標とします。

現在、市内には、動物園などの常設施設はなく、動物と直接触れ合える機会はまだ十分とは言えません。

そのため、常設化に先立って、まずは市民の関心や参加意欲を高める必要があると考えました。

そこで、私は、期間限定の動物触れ合いイベントを開催することを提案いたします。

動物を遠くから見るだけでなく、ウサギなどの小動物のお世話体験や餌をあげる体験、タカなどの動物を腕に乗せて写真撮影を一緒にして、普段はできない非日常的な体験を通して、動物との距離を近く感じられる機会をつくります。

体験中は、スタッフがカメラで撮影し、その写真はイベント限定のフレームなどに入れて、希望者が購入できるようにするなど、思い出を記念として残すサービスも行ったりします。

学生の長期休暇などとかぶる時期をメインに、京成百貨店やイオンモール水戸内原などの商業施設の一部区画を借り、開催することで、集客も見込めると思います。

最初は期間限定にしますが、期間限定にすることで特別感を出して、まずは多くの市民の方に参加してもらいきっかけをつくりたいです。

この取組によって、残る思い出から動物への関心が高まり、将来的にはイベントの定期開催や常設化への理解や賛同が得られると考えます。

参考資料として、京成百貨店で8月に行われたものを載せております。実際に私も参加したのですが、夏休みということもありまして、親子連れやこども同士で来ている人で賑わっており、皆さん、楽しそうに回っていて、すごく貴重な体験だったと思っております。

以上の取組などを中心に、動物の魅力を伝え、動物と触れ合うことでリフレッシュがかなうということを認識してもらい、徐々に人と動物が自然に共存できる水戸市を実現させたいと思っております。

以上です。

○司会

ありがとうございました。

続きまして、〇〇様、お願いいたします。

【提言9】若者からの魅力度No.1のまち

○発表者9

こんにちは。

私は、提言の9、ページ数は63ページの提言書を作成いたしました。

「若者からの魅力度No.1のまち」という提言になりまして、この提言ですと、借楽園や好文亭、駅の北口にある商店街の街並みなど、歴史や文化も大切にしつつ、若者が収入を得ながら住むことができ、そうすることで若者が多く集まって、そして活躍して、まちに活気があふれて、とても魅力的に感じる。そして、皆さんから選ばれるという提言書になっております。

この提言書を思いついた理由としましては、私は5歳と1歳になる息子と娘がおりまして、その中で、水戸市に住んで、いろいろ水戸の街中を歩いているときに、古くからある飲食店やお店がたくさんあるのですが、跡継ぎ問題とかでどんどんそういうお店がなくなっていくのを見ていて、こどもたちはそれが味わえないのかと思ったときに、悲しいなと純粋に思いついて、そうならないためにどうしたらいいかなと考えたときに、若者にたくさん住んでもらいたいという思いでこの提言書を策定いたしました。

では、そうするためにどうしたらいいかという課題につきましては、若者が働きたいと思える職場や個人店を増やす。そのためには、企業や個人店の福利厚生や研修制度を充実させる必要があるなど感じました。

1個、右の図、隣の64ページの上に参考にしたアンケートがあるのですが、20歳から28歳を対象にした「仕事観と自分らしさに関する調査」で、あなたにとって「自分らしく働く」とはどのように働くことですかというアンケートに対して、一番多かった回答が、「ワーク・ライフ・バランスを保ちながら働く」ということで、そのようにワーク・ライフ・バランスを保ちながら働ける仕組みとして、隣の解決や取組を考えてみました。

私が考えた取組としましては、「若者応援事業者認証制度」というものをつくるというこ

とを考えました。

文字よりも隣の64ページの下の図を見ていただけると分かりやすいかなと思うのですが、3つの企業、そして、水戸市と、三角形にトライアングルに連携しながらとって行く制度なのですが、そもそもどんな福利厚生や制度があればワーク・ライフ・バランスが整って若者から魅力に感じてもらえるかなと考えたときに、オレンジの企業の下黒丸の中が満たされているといいのかなと考えました。

例えば、長時間労働がないとか、若者向けのビジネスの基礎研修が行われているとか、オンラインのSNS運用の講座があるとか、ウェルビーイング制度があるとか、結婚お祝いのサポートがあるとか、住宅サポートがあるとか、こういうところができる若者が働きやすくなるかなと感じました。

では、若者を取り入れたい企業はどうしたらこの認証制度が取れるかという、水戸市に申請を出して、水戸市がその企業や個人店に認証を許可するということです。そして、もう一つ、この黒丸の内容を満たせませすという企業や協力したいという企業さんも水戸市の中にたくさんいらっしゃると思いますので、そういう企業さんたちは、水戸市に対して企業として登録をしていただいて、その協力企業に対しては、水戸市から登録者として水戸市のホームページに会社名を記載したりとか、承認のロゴを発行したりします。そして、給付金を給付することで、企業と水戸市の間ではお金のやり取りがあるけれども、若者を取り入れたいという企業や個人店にはお金の負担がなくて、かつ若者を増やせるという仕組みになるのではないかなと考えました。

このように、水戸市内の企業や個人店と水戸市が連携し、若者応援認証制度というものを活用することで、雇用をとにかく増やして、そして、古きよき文化や街並みを受け継ぐことができ、まち全体が活気にあふれ、魅力ある水戸市を目指せると考えております。

以上で、私の提言書9番の提言を終わりにします。

ありがとうございました。

○司会

ありがとうございました。

続きまして、〇〇様、お願いいたします。

【提言10】場所・人・お金が循環する水戸

○発表者10

よろしく申し上げます。

私は、提言書10「場所・人・お金が循環する水戸」で、提言書の27ページに挙げさせていただいております。

こちらなのですが、今まで市政モニターでいろいろな方のお話とかを聞かせていただいたりした中で、何でこれを選んだのかと申しますと、育児とか、介護とか、企業誘致とか、いろいろなことで、皆さんが案を出されていたのですが、すごいなと思いつつも、ではそれを回すための財源ってどうするのだろうというのが私の中でもものすごく「いい案！全部かなえてほしい！でも市役所のスタッフの方も限りがあるし、それに割けるお金も限りがある」となった場合、財源を確保できる場所を何か提案できれば、それに役立つのかなと思って

挙げさせていただいたのですが、今現在、千波湖がもう公園整備計画で民間の方に入っただけで開発が進んでいるかと思うのですが、サウナとか、お店が入ったりして、人が集まりやすい環境が整いつつあると思うのです。

そういう場合って、民間企業さんとかでも大きなところしか使えていないということがありまして、それであれば、民間の人、あとは、市民とかも気軽に使えるようになれば、そういう場所をもっともっと水戸の魅力として広めていけるのではなかろうかということで、こちらの提言を作成させていただきました。

レンタルスペースとして、千波湖とか周りの場所を使えたら、企業さん以外でも簡単に入って、そこで何かしらイベントを起こしていただいたり、人を呼ぶイベントになるのかなというのでこちらを作成しております。

提言書の65ページに課題と取組を記載しているのですが、まずそういうところを活用しようとなった場合、市のほうに申請をするとか、何かしらの手続きというのがものすごく大変になってしまうなというイメージがあります。そういうことがもし簡単にワンストップ申請みたいな形でいい場所を簡単に使えるというシステムがあったら、「ああ、ここいい場所だよ、ここで何かこういうイベントができるといいよね」と民間や市民の人が思ったときに、いろいろアイデアを出し合って、そういうところを活用できるのではなかろうかということを考えました。

こちらは、どちらかという、プラスのお金、開発費とかそういうのではなく、あるものを、市の役割、制度をちょっと整えるだけで参加ができる形ができるのではないかなというのを考えたので、そちらのほうで提案させていただいております。

そういうふうには民間の企業さんや市民の方が参加できて、ここをもっといい場所にしていくという活動が広がれば、今回は千波湖という形で御提案させていただいたのですが、いろいろな場所で活動ができる幅の第一歩になるのかなと思ひまして、今、大きなところだけが開発に取り組んでいる状態ではあると思うのですが、市民や中小企業もそういうところに参加して、どんどん可能性を広げていっていただければなという案で、私の提言は終わりなのですが、もしよければ、御検討いただければと思います。

御清聴ありがとうございました。

○司会

ありがとうございました。

続きまして、〇〇様、お願いいたします。

【提言11】市民一人ひとりが推せるまちづくり～余白のある日常を、あなた色に～

○発表者11

よろしくお願ひします。

提言書は、29ページと68ページになります。

基本的に、68ページのほうを御覧いただければと思います。

私からの提言は、「市民一人ひとりが推せるまちづくり」ということです。サブタイトルとして、「～余白のある日常を、あなた色に～」とつけさせていただきました。

私が、理想的、魅力的だと思う水戸の在り方は幾つかあるのですが、一つは、千波湖とか、

偕楽園とか、緑とか、自然とか、そういう都市の余白部分、空間的なゆとりが非常に充実している都市になっていることが一つの魅力だと思っています。

2つ目としては、水戸はすごく歴史のあるまちなのですが、その歴史が日常の中に溶け込んでいること、風景的な張りぼてと言ったら失礼かもしれませんが、背景的なものではなくて、日常の中にしっかり溶け込んでいる、それを自覚しているということ、これがすごく魅力につながると思っています。

3つ目としては、生き生きとした市街地ということで書いたのですが、中心市街地、まちの顔、都市のイメージを決めるエリア、これが活気あふれていること、これも重要だと思っています。

そして、何より、4点目として、そういった充実した環境、自然・文化・歴史、それから、市街地、商業的なところを含めて、市民の皆さんが、一人ひとり、そのよさを自覚して、それぞれのライフスタイルに応じてまちを楽しんでいる。先ほど、市長から、都市行政をやらなければという御発言がありましたが、逆に言うと、すごく充実している都市をつくらざるを得ない、充実している都市になっていくべき場所なのです。それを市民の皆さんが自覚を持って使っているということ、その様子が発信されていること、こういった状況が魅力的なまちだなと思っています。

それに向けて、課題として4点挙げさせていただいております。水戸らしさということで、充実した都市環境を活用している市民が増えていることについてですが、一つは、中心市街地が緑化されているべきだと思っています。都市のイメージとして、千波湖や偕楽園、すごく緑豊かなエリアがあるのです。あるいは、茨城県自体が緑とか農業の様子があるのですが、水戸の特に駅を出て北口を見てみますと、基本、グレーなのですね。すごくもの寂しいような感じがありまして、国道50号沿いのイメージがどうあるべきかというところが大事なかなと思っています。一つは植栽。もう一つは、中心市街地の中、密度が非常に高いので、公共空間が取れないということで、市民緑地の認定というところも進めていくべきかなと思っています。

2つ目の課題として、白壁通りが再現されているのですが、そこを体験できるコンテンツが今はないのです。例えば、お茶屋さんとか、団子屋さんとか、一時的なイベントでもいいので、何か日常に織り込めればなというところなんです。

それから、3点目、「#みとさんぽ」というInstagramの企画があるのですが、ここの認知度がかなり低いのではないかと、こういったところも含めて、SNSでの配信がちょっと弱いのかなと思っています。

4点目として、市職員が自信を持って水戸を推しているようにするというところで、一人ひとりが推せるというところで、当然、市の職員の皆さんも水戸のよさって何だろうというのを自分なりに解釈して、日常の業務の中で推せる環境をつくっていく。例えば、ネームプレートに書いていただくとかでもいいと思いますが、一人ひとりがそういった自覚を持って、生活の中で水戸を意識する、そういった環境づくりをしていくことが必要ではないかと考えての提言です。

以上になります。

○司会

ありがとうございました。

続きまして、ただいまの発表を基に、市長との懇談をしていただきます。

よろしく願いいたします。

○高橋市長

ありがとうございました。

コンパクトなこのまちの提言だったのですが、先ほど、〇〇さんから言われたことに言い忘れてしまったことがあって、言われてみると、乳幼児のために市民センターを活用せよという話だったのですが、実は活用していたのです。私、忘れていました。34か所全部に子育て広場をつくらせたのです。すみません、言うのを忘れていました。

ただ、その地域によって、週に1回だったりとか、月に2回だったりとか、ちょっとばらつきがあるのですが、あれを全部まとめて、何曜日はどこどこがやっているとか、何日はどこどこがやっているとかとやると、意外と1か月に何回か使えるのだと思うのです。別にその住民でなければならぬということはないので、例えば、千波市民センターは千波の住民でなければならぬということではないのです。どこどこは木曜日にやっているとか、どこどこは水曜日にやっているとするれば、水・木と利用できたりするので、まとめてやれば結構便利に使っていただけるのかなと思いましたので。すみません、私はすっかり忘れていました。乳幼児のためにも使っています。地元の女性会とか、地域の自治会の方々に頑張っていて、何とか持続可能にやっていただいているところでもありますので、この取組はうちのほうで少し支援もさせていただいてはいるのですが、乳幼児の小さいお子さんが遊べて、特に、お父さんにしても、お母さんにしても、ちょっと気持ちが和らぐ時間で、そこに行けばまた友達とかにもなれるし、あるいは、おじいちゃん、おばあちゃんたちとの会話で、解決方法とか、精神衛生上、少しそこで安堵を覚えたりとかというのもあるので、そこは引き続きやってきたいと思っています。

あと、いろいろな施設をいかに有効に活用するかということなのだと思います。必ずしも新しいものをつくるばかりではなくて、既存施設にいかにいろいろな機能を持たせるかということなのですが、そういう意味では、実は、私は、何でもまちの中でやろうということでコンパクトにつくってきたのです。市民会館も、郊外に田んぼを埋め立ててつくれみたいなこともあったのですが、そんなことでは全く何の文化も生まれぬから、ちょっとお金はかかるにしても、無理無理、市街地に持ってきたのです。

あと、今、ロボットの拠点になっているアダストリアみとアリーナなども、あれは県から請け負ってやったのですが、あの場所でなかったら県から受け取らなかったのです。郊外にあったらやらなかったのです、どうぞ県がやってくださいと。街中にあるから私は受け取って、あそこは、今、それこそプレミアリーグでも対応できるような施設にして、稼働率がすごく高くて、予約が取れないくらいになってしまっているのです。

それから、先ほど話が出た千波湖の集客施設なのですが、これもいろいろ提言をいただいて、道の駅をつくってほしいみたいなことを言われるのですが、私はかたくなに道の駅はつくらないのです。道の駅ってどうしても郊外なのです。ほかの小さな町・村は10万人とか何十万人と集まる場所がないじゃないですか。だから、郊外でもいいから、ああいう道の駅をつくらうという気持ちは分かるのです。人口数万人のところのまちづくりはそうなのかも

しれないけれども、水戸のようにもう集客施設がいろいろあって、あえて郊外に何で今さら観光施設をつくる必要があるんだという私の考えなのです。だから、私は、かたくなに道の駅はつくらないで、まちのど真ん中に集客施設をつくらせたわけです。しかも、Park-PFIというほとんどうちが金を出さずに、民間の投資で30億円、40億円呼び込んでつくっていただいているのです。

そのようにコンパクトに水戸市は移動ができる。おかげさまで、郊外は別としても、街中はそれなりに公共交通が通っていて、令和8年度からみとちやりをさらに40台以上増やして、今、全部で150台ぐらいになるのかな。ステーションも相当増やすみたいなのですが、そのみとちやりでコンパクトに移動していただいて、いろいろな利活用をしていただくというような、コンパクトに移動し、コンパクトに施設を利用していただけるというような構造にさせていただいています。

ですから、市民会館なども、この時期、特に受験生のメッカになりまして、昨日もちょっと私、通ったのですが、とにかく自転車がすごく並んで置いてあって、こんなに高校生が来ているのかというくらいに受験勉強に励む高校生たちが集まっていたのです。あれも、もともと京成百貨店の一番上のところで申し訳なさそうに高校生が勉強をしている姿を見て、何とかこの高校生たちに場所を提供したいなという思いで、市民会館ではあるのだけれども、市民会館にあのようなフリースペースの場所を設けたのです。それが大成功して、今は席の取り合いになるくらいにいっぱい高校生に来ていただいて、そこで勉強されたり、おしゃべりしたりしています。

本当は、高校生が次はそこから街歩きしていただいて、高校生が昔のルーズソックスがはやったみたいに、何か独自の文化でもつくってくれば有り難いなと思っているのですが、今の高校生はまじめなものですから、勉強だけに来て、そこに親御さんが迎えにきて帰っていくという構造になってしまっているのですけれども。せつかく街中に高校生が集まるのだから、その高校生たちが次なる行動を移していただいて、何か街で新たな若者文化でも生まれれば有り難いなと、そんなことを逆に促していきたいなということも、今、思っています。

とにかく、水戸はそういうふうになんでもコンパクトに、郊外にむやみやたら集客施設をつくるのではなくて、体育施設も、文化施設も、集客施設も、観光施設も、街中におかげさまであるので、そこをコンパクトに移動させながら、また新たな交流や歴史・文化をつくっていききたいなと思っています。

様々なそういった配置した施設を今度は子育てのためとか、あるいは、高齢者の交流のサロンのなもに使うとか、今、とにかく抱える問題を解決するための機能をどういうふうにしたせるかということは既存施設の中でしっかりまた高めていきたいなと思っておりますので、具体的に、皆さん、こういう施設をこういうふうにご利用すれば面白いのではないかなというようなことがあったら、逆に御提言もいただければ有り難いなと思っています。

それと、動物の話をしたのですが、水戸市は44市町村の中で唯一中核市で、保健所を持っていて、唯一「あにまるっとみと」という動物愛護センターを持っているのです。これは水戸市だけなのです。いわゆる動物行政を直接やっているのは水戸市だけで、ほかの自治体はみんな茨城県任せなのです。私たち水戸市だけが動物行政を直接やって、動物愛護意識の醸成というものを図っているのですが、その「あにまるっとみと」、いわゆる動物愛護セン

ターを中心に、子どもたちと動物の触れ合いの活動をしたりとか、あるいは、里親マッチングの活動をしたりして、とにかく殺処分ゼロです。できてから5年になりますが、殺処分は一切やっていません。ゼロをずっと踏襲しているのです。ボランティアの方々にお手伝いいただき、そういうことが成し得ているのですが、水戸はそういうノウハウをだんだん蓄積してきて、市民の間にも動物愛護の文化がだんだん浸透しつつあるので、引き続き、動物愛護センター「あにまるっとみと」を活用して、そこを発信拠点にしながら、動物愛護の文化をしっかりと広めていきたいなと思っています。

唯一、水戸市だけが茨城県内でできる自治体なので、そこは範を示していきたいと思っています。ほかの自治体も、直接的、間接的にはやっつけらっしゃるのだと思うのですが、どちらかというと、茨城県の動物指導センターがあるので、ほかの自治体の案件は大体そこに何でも行くのです。水戸市は、独自に捕獲器を持って、猫を捕獲して、去勢・不妊の手術をして、耳先を切って、それでまた地域に返すという地域猫活動なども、地域の皆さんと連携・協働しながらやっているのは唯一水戸市だけなのです。

そういうノウハウも蓄積してきたので、そこをさらにもっと活動を広げていきたいなと思っていますので、またいろいろ御意見をいただければというふうに思っています。

それと、まさに稼ぐまちは、今、水戸市が目指しているところで、千波湖の事例もいただきましたが、いかに稼げるようにしていくかということ、稼げるまちにしていくかということが大事なのです。おかげさまで、先ほど申し上げたとおり、税収がここのところずっと上がっていて、水戸市市政施行136年か137年になるのですが、令和7年度も今度の令和8年度もいわゆる最高税収になるのです。おかげさまで稼いでいるのですが、その稼ぐまちって何なのだろうかということをいろいろ考えていたときに、この後、話が出てくるのでしょうか、働く場の確保なのかなと思っています。それで私が就任してから企業立地のほうに力を入れていって、一部には東部工業団地の周辺なのですが、もう売る土地がないくらい工場とか流通センターとかを張りつけて、そこだけでも相当の雇用と固定資産税の収入、それから、投資が生まれてきているのですが、許認可を簡単に受けやすいなども含めて、規制緩和なのだと思うのです。規制緩和をすると、いろいろと賛否両論が出てきてしまっていて、例えば、土地の利用の規制緩和をすると、環境悪化を招くとか、例えば、空き家を利用して、ここを民泊に使うように規制緩和しようと思ったら、民泊でまたごみの捨て方とか何かで問題が起こるとか、規制緩和すると、併せて別な規制も生まれてくるものですから、そこうまくやっつけなければならぬのだけれども、ただ、今のままでほったらかしにするとやっぱり稼げるまちにはならないので、相当いろいろなことを規制緩和しながら許認可などもする必要があると思っています。

実は、私が就任する前は、ペDESTリアンデッキでさえなかなか貸さなかったのです。あれだけの広場があつて、何かイベントをやってもらわなかったらもったいないじゃないですか。それを、あそこは道路法上の道路なのだから何とかと言いながら、あまり積極的に貸さなかったのです。私が就任してから、あそこを開放しようということで、規制緩和をして、電源までつけて、電気を取ってあそこで音楽ができる。その反動で、地域のマンションの住人からまたクレームが来ていて、そこは今は我慢していただいているのですが、そういうふうに規制緩和をしてきたのです。もちろん利用の仕方のルールなども決めたりもしましたが、

そういう稼げるまちにするのには、こういった許認可業務とか、土地の利活用とか、今の施設をもっと幅広い方に使ってもらおうという規制緩和が必要なのだと思うのです。規制と新たなルールをつくるというこのバランス感覚をしっかり持ちながら、あまり規制緩和ばかりすると、今度は環境悪化だとか、近隣住民の生活環境を阻害するとか出てきてしまうので、そのルールを決めながら規制緩和をしていく。まさに企業立地などがそうなのです。水戸市ではもう土地はほとんどないですから、あとは規制緩和をして、今までできなかった場所に、環境の悪化を招かないような形で流通とか工場とかを建ててもらおうということなのです。その規制緩和をしっかりやっていくということなので、いろいろと許認可業務等も含めて、もっと分かりやすい、簡単な、今、それぞれの部署によって許可を下ろすことが違うので、皆さんに御苦勞はおかけしてしまうのですが、何かいいやり方ってあるのかもしれないのですが、今は思いつかないのだけれども、できるだけ皆さんにいろいろな施設を利用していただけのような、そこでいろいろ稼いでいただくような、そこで私たちも税収が増えるような、そんな様々な規制緩和策を考えていきたいなと思っています。

いろいろな働き方とかそれに対する支援とかも御提言いただいたのですが、例えば、今日、午後から水戸市優良工場認定表彰式をやるのですが、そういう制度を設けていたりとか、男女平等にしっかり取り組んだ企業さんを表彰し、そして公表するという支援をさせていただいたりとか、あとは、今、消費者志向経営、安全だとか、健康だとか、環境だとか、男女平等も含めて、そういうことにこだわりながら経営をしてくださっている企業を認定して、公表して、そのように取り組んでいるところを模範として、要はロールモデルとして横展開できないかというようなことも考えています。担当とそういう話をしているのですが、そういった優良な企業さんにインセンティブを与えて、水戸市が応援をして、ある程度お墨付きをつけてということもやれるのです。

ただ、この間、大学生との懇談を議会で行ったようで、そのときに、パワハラ・セクハラがあるか、ないかまで判断をして、それでパワハラとかセクハラがないような企業を認定して、それで公表してほしいみたいなことを言われたのですが、人が変わる話になってしまうので、いつまでも同じ人が部長とか、同じ人が課長になっているわけではないので、そこを認定するというのはなかなか難しいところではあります。ただ、客観的に、あるいは、物理的に認定できるような制度というのは面白いのかなと思っています、まずは消費者志向経営みたいなものは認定してみようかなと思っています。

SDGsの理念を含めて、それから、ESG投資とか言われている中で、社会貢献をしているような企業が多ければ多いほど、皆さんがここは安心だからというふうに集まってきて、働いていただけるというような循環も生まれてくるでしょうし、今、本気で考えているのが、今年中に何とか練って、令和9年度から始まるかなと思っていますのは、カスタマーハラスメント条例をしっかりとつくろうと思っているのです。どうしても精神条例になって、どこまで罰則をつけられるかというのはあるのだけれども、水戸市だったらこういう条例があるから安心して働けるよねという。私たちは消費者であり労働者だから、自分が被害者にも加害者にもなるのです。自分が働いているときはやられるけれども、自分が買いに行くときはやるという、私たちは消費者であり労働者だから、加害者にも被害者にもなるのだけれども、お互いにそういうことを気を付けましょうという条例をしっかりとつくろうと思っています。

単なる精神条例みたいなものではなくて、ある程度実効性のある条例をつくりたいなと思っているのです。それで安心して働いて、それで水戸市にある企業だったら安心できるよということで、働く人たちが水戸に集まってくるというような、そんなこともやってみようかなと思っています。

どちらにしても、水戸に引っ越してきて、水戸に転入してきて、子育てにしても、学ぶことにしても、働くにしても、それから、老後を暮らすにしても、こういうライフプランですよということをしっかり描いていただけるような情報提供をしようということで、今、政策企画課を中心にそれをやっているところなのです。

水戸に入ってきて、どういう生活が待っているのだろうと。もちろん、生活は皆さんの努力ですよ。皆さんの努力次第でどうにでもこうにでもなるのだけれども、ただ、その基盤があるので、せめてその基盤的なところについては、別に皆さんの努力とかそういうことではなくて、何か描けるような、そういう示し方をしていこうということで、今、こちらで練らせていただいています。

私の話ばかり長くて、ごめんなさい。

中心市街地の提言なのですが、ちょっと悩ましいところがあって、意外と緑がきれいなところはどこかといったら、やっぱり東京なのですよね。やっぱりお金があるところは違うなと思っているのです。私たちも出張で東京へ行くと、東京の街並みってどこよりもきれいだと思うのです。東京が一番都会だから、緑がないのではないかなと思うのだけれども、一番緑がきれいなのは私は東京ではないかなと思うくらい東京の街中は緑がきれいなのです。けれど、水戸市はお金がないから、結局、強剪定といって裸ん坊にしてしまうのです。一本棒にしてしまうのです。秋にきれいな銀杏並木なんかも裸ん坊一本の木にしてしまっていて、それで落ち葉とかをやらなくていいようにしてしまうのです。

私も反省するところもあるのだけれども、例えば、梅香下千波線といって梅香トンネルからずっと県庁のほうに向かう道があるのですが、私が就任した以降の道路は非常に殺風景です。私の前任者までは道路のセンターのところに植込みがあったのです。私が就任した以降につくった道路は、全部殺風景で、緑一つないのです。植物の剪定をしたりとか、管理にお金がかかるので、一切やめてくれということで、ああいう郊外に向かうような環状道路みたいな、基幹道路みたいなものについてはもう街路樹なんかつくらなくていいから、道路としての機能さえしっかりして、こどもたちや高齢者の安全だけ守ればいいから、その分、逆に歩道を広くして、歩きやすくして、ジョギングでも何でもできるようにしたほうがいいからということで、私は郊外のほうの道路には一切緑はつくらせないのです。

ただ、中心市街地のような街中はきれいにしたいなと思っています。今日は景観の担当者もそこにいるので、今の御意見をいただきながら、白壁塀の活用なども、あれだけきれいにしながら、夜、ライトアップをしているのですが、誰も歩いていないのです。夜に行ってみてください。すごくきれいなのですよ。京成ホテルの11階の宴会をやっているところから私はこうやって眺めるのですが、すごくきれいなのです。あそこにカウンターバーでもつけて、飲みながらあの風景を見るときれいなのではないかなと思うくらいきれいなのですが、誰も歩いていないのですよね。ちょっともったいないなと思っています。これからそういう景観をどういうふうに活用して人の交流を導き出すかということが大きな課題になってい

ます。

街中の景観づくりというのは課題ではあります。ただ、植物の管理の経費と、それから、景観と、そこをブレーキ踏んだりアクセル踏んだりしながら景観づくりをしていかなければならないなと思っています。

余白のある日常というのは非常にいいことなのです。ぎすぎすした生活よりも、私たちは、文化とか、芸術とか、スポーツとか、歴史とか、自然とか、そういうものに親しみながら、潤いのある生活をしていきたいと思うのですが、今、目先の物価高であるとか経済のほうにどうしても行ってしまっているというのが、悲しいかな、私たちの政治の世界なのですが、少し私たちも立ち止まって、余白のある自然とか、歴史とか、芸術・文化に親しもうとか、そういうところにも気を付けながらまちづくりをやっていければなと思っています。

せっかくですから、何かあったら、一言、二言、補足ください。それを踏まえていきますので、よろしくをお願いします。

○市政モニター

ありがとうございました。

では、一言、二言。

私は、提言の地域コミュニティがもっと活性化したらいいなというところの話をしたのですが、今、お話を伺ったりした中で、こんなのがあったらいいなということがあったらということで、1個、思っているのが、多分、町内会が残っているエリアって結構少なくなってきたのかなというのは感じているのですが、実際、城東の一丁目エリアはまだ町内会が生きていて、移住者の私は、両親も遠いので、子育てで頼れる人がいなかったりする中で、町内会の人が見知りになったりとかで、助けてもらったりとかするに当たって、ただ、若者が入りにくいとかはあると思うので、そこをいきなり町内会に入ろうというよりは、市民センターがその学区にあって、再活用できる場所としてあると思うので、そこを多世代が交わるような仕掛けを市のほうでやっていただけたらすることで、市が全部やるというところとちょっと大変だとは思いますが、資金面もあると思うので、いかに民間をうまく誘致して、チャレンジショップのようなものを取り入れたりとか、入ってもらったりで、NPOでも子育てをやっている方とかもいるので、そういう団体とかをうまく入れることで、月に1、2回とかではなく、小さいエリアでもいつでも気軽に行けて、気軽に行くことで多世代が自然と交流できるみたいな仕組みができるといいのかなというのと、市民センターが再活用できることを願っています。

○高橋市長

市民センターの場所によっては、結構、昼間も空いていますからね。

ありがとうございます。

○市政モニター

ありがとうございました。

先ほどの中心市街地の件と街路樹のお話、非常に生々しい状況かなと思います。

私自身、水戸出身で、千波小・中・緑高と育って、茨大に行って、一回、大阪に出て、戻ってきたのですが、今、就職して、車移動になると非常に便利ですね。市長がおっしゃるように、車での移動、自転車の移動、非常に便利です。

一方で、私が小さい頃、小学校とかに行っていた頃に、4月になるとさくら通りの桜並木が非常にきれいで、確かに歩道はがたがたしていました。根っこが張ってくるものですから、自転車での移動というのは非常に不便だったのですが、一方で、桜並木というのは心象風景としても残っておりまして、小さい頃の思い出、またこのまちに住みたいなという次世代の思いというのもそういうところから生まれてくるかと思imasuので、そこは難しい問題だとは思いますが、何とかできればなと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○高橋市長

ありがとうございます。

○市政モニター

先ほど、経済とか、発展とか、そういうのでいい案があればということでお話があったかと思うのですが、私、今回の提言書で、こういうのがあったらいいのかなというのも出させてはいただいたのですが、こういう市政モニターという形で関わることでこういうふうなお話をさせていただく場を設けていただいたと思うのですが、周りの友人たちとかが、私がこれをやったことで、「え、私も何か言いたいんだけど」とか、「こういう案あるんだけど」とかというのがかなり多くて、そういうふうなやる気のある子たちが結構周りにいて、「そういうのをどこを通せば市の方にお話を届けることができるのか、それだけ聞いてきて」と頼まれたのですけれども。

○高橋市長

窓口は、一番は、市民相談室に言っていただければ、そこから担当のほうに回りますので。あとは、来るのが大変だったら、メールをいただいても結構ですし。

そういう敷居を少し低くすることなのだろうね。役所にそういうことを言うのって、何か言いづらいみたいなことがあるのかもしれないですよ。もっと面白く受け付けるやり方だね。

○市政モニター

私が行っているから「知っているでしょう」と言われるのだけれども、私も分からないし、そんな簡単に言えるものなのと逆に聞かれて、まずそれを受け入れてくれるのかも分からないしということで。

○高橋市長

市民相談室の入り口でも少し飾るか。入りやすいように、どうぞ御自由にと。カスハラは別として、もっと来やすいように。

いろいろそういう窓口がありますよということはもっと情報発信したいと思imasu。

○市政モニター

ありがとうございました。

○市政モニター

先ほど、市長のほうから規制緩和のお話もあったと思うのですが、私は個人事業主で、ヨガの講師をしていて、健康に関するイベントや、美容と健康のイベントとか、イベントを開催することが多くて、そのたびに水戸市などのいろいろなところに申請を出すのですが、こういうことをしたいですと言ったときに、それはうちの部ではないです、うちの担当ではないですと結構たらい回しにされることが多くて、そこでやりたかったことを諦めてしまった

りとかすることも実際にあるのです。なので、私の要望の一つとして、積極的にまちを盛り上げたい、いろいろ人を呼びたいという気持ちでイベントを開催しているので、なるべく前向きに、どの部署でも「うちがやりますよ」というポジティブな感じで捉えていただけたら大変うれしいなと思っております。

○高橋市長

ということですから。分かりましたか。

○市政モニター

ありがとうございます。

○高橋市長

そのときには、直接、私に来てください。

○市政モニター

ぜひよろしくお願いします。

○市政モニター

すみません、先ほど、市長が、一番冒頭に、市民センターで乳幼児の広場をやっていますということを知って、一つ、私のほうからも、気になっていることがずっとあって、お伝えさせていただきたいのですが。利用するに当たって、市のホームページのほうで、カレンダー形式で、今日、この曜日はどこの市民センター、どこの市民センターと一覧でカレンダーで出てはいるのですが、市民センターの名前が出ているだけで、この市民センターがどこにあるのかというのが分からなくて、一々、名称とグーグルマップを調べて、今日はここに行けそう、今日はここに行けるけど、すごく遠いからちょっと無理という手間がすごくかかっているという経験があったので、そこをもう少し見やすくしていただきたいなということ。もう一つ、市民センターや子育て支援センターを乳幼児が使うに当たって、利用するごとに利用者登録を初回にしなければいけないのですが、わんぱーくとはみんぐぱーくに関しては、同一のプラスチックのバーコード式の会員登録をするのですが、そのほかの市民センターは、各市民センター、全く別のカードが発行されるので、下手したら30枚以上登録しなければいけません。いきいき交流センターのあかしあ、あとは、赤塚のスマイルキッズで一時保育をやっていますが、あそこもそれぞれ別の利用登録が必要で、すごく使いづらいのです。

市民センターなり支援センターなり、子育ての支援ということでやるのであれば、ぜひシステムを一本化していただいて、一度登録すればみんなが利用できるよという敷居を低くしていただけるととても助かります。

ありがとうございました。

○高橋市長

今、市民センターは、利用申込みなんかは全部データベースにして、ひとつずつ登録しなくて済むようになったんだよな。

○市民生活課

カードを全部の市民センターで作るのではなかったのでしたっけ、こども政策課長。作れば全部の市民センターを回れるのではなかったのでしたっけ。

○高橋市長

回れていないのかな。

やるようにしてあるとはいえ、その辺のところ、もっと分かりやすくやっておいたらいい。場所の検索も含めて、飛ぶようにしておけばいいんだよ。例えば、堀原市民センターといたら、ぱっとやればすぐそこで場所が分かるようにする。

○市政モニター

2年前の私の経験で、変わっていたら申し訳ないです。

○高橋市長

最近、うちもデジタル化して、申込みも全部オンラインで申込みができて、場所に行かなくてもいいようにしたものですから。そうすると、登録の団体なども、ひとつずつ、ここの登録、ここの登録とやらなくても済むようにしたのです。それと同じような考えなので、できるのではないかなと思ったのですが、きちんとやっています。

○市政モニター

ありがとうございます。

○司会

続きまして、「誰もが輝く水戸」に関する提言について、順に発表していただきます。

それでは、〇〇様、お願いいたします。

グループ3「誰もが輝く水戸」

【提言12】多様な仕事が充実し、達成感をえられるまち

○発表者12

提言書の73ページを御覧ください。

これから、提言12「多様な仕事が充実し、達成感をえられるまち」について発表させていただきます。

よろしく願いいたします。

まず、私の理想とするまちについてお伝えします。

このまちは、若者や子育て世帯が自分のライフスタイルに合った仕事や働き方ができるように、様々な職種や福利厚生が充実しているなど、働きやすい環境が整備されています。

そして、このまちの人々は、仕事とプライベートを両立して、バランスよく暮らしています。

フレックスタイム制や時差出勤などの時間の融通が利く制度を活用して、個々のライフスタイル等に合わせて、働く時間や場所を自ら選択できるような柔軟な働き方をしています。

このまちでは、やりたい仕事に就き、達成感ややりがいを得ながら、プライベートも充実して、豊かに楽しく暮らせるので、皆から選ばれています。

このまちの魅力の一つは、水戸市に住む若者が仕事もプライベートも楽しめることであり、ここでは特にこれを目標とします。

次に、目標達成のため取り組む課題としては、若者が柔軟な働き方ができ、仕事もプライベートも楽しめるようにするため、特にフレックスタイム制を導入している企業を増やすということです。

この課題解決のため、先に企業がフレックスタイム制を導入できない理由というものを検討しました。

74ページの参考資料を御覧いただきますと、テレワークのデメリットとして、意思疎通や情報交換の難しさにより、主観的な労働生産性が低下するといった調査があります。そして、これは、対面での意思疎通が減るという意味で、一定程度、フレックス制にも共通していると推測されます。

よって、この問題を解決するような取組を行うことで、企業は柔軟な働き方を可能にしながら、長期的な利益を確保して、フレックスタイム制を導入できると考えました。

これを踏まえ、課題解決への取組が3つあります。

1つ目は、企業がフレックスタイム制を導入することに関し、そのとき、その場にいなくても、必要な情報交換ができる機材を導入する場合や、おのこの企業に合った効果的なフレックスタイムの制度設計や運用の仕方をするために、外部の専門家へ相談する場合に該当すれば補助金を交付するという取組です。これによって、企業のフレックスタイム制導入に伴う問題を解消し、効率的な企業運営が実現して、長期的な利益を確保できるようになることを期待します。

2つ目に、フレックスタイム制の導入後、業務効率や利益の向上が見られ、そして、他社が追従できるようなモデルケースを構築した企業に報奨金を出すという取組です。

これによって、企業がフレックスタイム制をただ導入するだけでなく、どうすれば自由な働き方をしながら、効率を落とさずに業務ができるかということを自発的に工夫できる動機づけを図ります。

3つ目に、企業の経営者を対象に、フレックスタイム制を導入して利益を上げた企業を発表者とするセミナーや座談会を開催するという取組です。こうして実際の企業の成功事例を聞き、従業員自らが勤務時間を決定しながらも、意思疎通、情報交換を行っていく方法など、より効果的なフレックスタイム制の運用の仕方を知ることによって、フレックスタイム制の導入と企業が長期的に利益を得られることを期待します。

これらの取組によって、フレックスタイム制を導入する企業が増え、若者が柔軟な働き方を選択でき、仕事もプライベートも楽しめるまちになるということで、私の理想である多様な仕事が充実し、達成感を得られるまちにつながると同時に、若者の定住や移住につながるのではないかなと考えます。

発表は、以上になります。

御清聴ありがとうございました。

○司会

ありがとうございました。

続きまして、〇〇様、お願いいたします。

【提言13】若者が住み続けたいと思えるまち

○発表者13

提言書のページは、34ページ、そして、75ページを御覧ください。

まず、私が理想とするまちは、「若者が住み続けたいと思えるまち」です。

このまちは、進学先や就職先の選択肢が豊富にあり、ライフスタイルに合わせた働き方や学びができます。また、市民は、治安や交通事故に対する不安がなく、安心して仕事や学業

に打ち込み、生活を送ることができます。

さらに、自己実現に向け、努力できる環境が整っており、仕事や趣味などの取組を発信することもできます。

今回の提言では、このような理想のまちの実現に向け、3つの課題と取組を述べさせていただきます。

提言書75ページを御覧ください。

まず、1つ目に、学生や働く方々が安心して生活できるまちの実現に向けた生活圏の道路の安全性向上についてです。

とても限定的な範囲で恐縮なのですが、茨城大学周辺、渡里町から袴塚3丁目にかけてのエリアでは、車を持たない学生の通行も多く、夜間の暗さに不安を感じることがあります。

特に、国道123号や常磐2号線を中心に、省エネルギーで広範囲を照らすLED街灯の増設を進めていただければと思います。

なお、国道については、市の直接管理ではないと思いますので、道路管理者への働きかけを行っていただくことになるかと思います。

併せて、防犯灯補助金制度についてなのですが、市のホームページや広報誌に加えて公共施設でのポスター掲示や公式LINEなどでの通知を行い、より積極的な活用につなげていただきたいと思います。

2つ目に、「学びたい人が自己実現できるまち」の実現に向けた学習室の環境整備についてです。

水戸駅南口周辺にアクセスのいい大規模な学習スペースを整備することを提案いたします。個人で集中できる仕切りつき座席と、仲間や友人と協働して作業ができる共同学習スペースの両方を設けることで、多様な学習スタイルに対応できるかと思います。

駅南中央通りのような明るく人通りの多い大通り沿いに設置することで、放課後や仕事終わりでも安心して利用できる環境が実現できると考えます。

最後に、「趣味や仕事などに主体的に取り組む人が生きがいを実感できるまち」の実現に向けた水戸市中心街での発信を後押しする仕組みを御提案します。

現在、Mitori0などの中心市街地でイベントを開催する際には、公共施設の使用許可、交通規制、補助金申請など複数の手続きが必要だと思います。これらを一元的に相談・申請できる窓口を設置し、手続きを簡略化・明確化することで、市民がより円滑にイベントを開催できる体制を整えていただきたいと思います。

発表は、以上となります。

御清聴ありがとうございました。

○司会

ありがとうございました。

続きまして、〇〇様、お願いいたします。

【提言15】若者が定着しやすく活気がある街

○発表者14

お願いします。

提言書のページは、79ページになります。

私は、「若者が定着しやすく活気がある街」ということで、この提言が理想とするまちの姿に関しては、人との交流が盛んで、人と人がつながっていると感じられるまちです。

また、自然豊かな偕楽園、千波湖、千波公園やカフェ、飲食店が集まる大工町や南町、市民会館など、人々がたくさん集まるところが市内にたくさんあります。

また、イベントに参加しながら、人々は交流を楽しんで、若者と多世代の様々な交流が生まれています。

こうしたまちで、若者たちは、地元就職したり、起業したりということが理想の一つとなります。

また、お互いのコミュニケーションによって、価値観や考え方を共有でき、多様性や活気が生きているのがこのまちの魅力となります。

学生から20代、30代の人々が楽しくて活気のあるまちをこれらの目標といたします。

活気のあるまちであるためには、人々が集まることがとても大切だと考えています。人々が集まるよう、様々なツールというものがありますが、私は、今回、ゲームを取り上げさせていただきます。

ゲームを通じて様々な人がコミュニケーションを取れるよう、好きなゲームイベントなどを開催して、実際にアクセスのいい場所に人々が集まるように、専門機器などを導入することも課題として挙げさせていただきます。

また、機材があつたり、道具だつたりを、会議室のようなアクセスのいい場所に設置し、人々が集まりやすい場所にするのがとてもいいかなと考えます。

コロナ禍以降、今、インターネットが発達して、実際に人々が顔を合わせたりするという部分がかなり少なくなった時代ではありますが、実際に人々が直接顔を合わせて、自分の趣味やゲームなどでコミュニケーションを取れるのがとてもいいかなと感じました。

ゲームにかかわらず、趣味やスポーツ、学問など、様々な人がつながることが活気のあるまちにつながるかなと考えています。

発表は、以上になります。

御清聴ありがとうございました。

○司会

ありがとうございました。

それでは、続きまして、発表を基に、市長と懇談をしていただきます。

よろしく願いいたします。

○高橋市長

ありがとうございました。

若い人たちが集まってくるということ、多様な人たちが多様な働き方を求めてまちへやって来る姿を描きながら、いろいろな企業立地とか、事業所誘致とか、それから、企業支援とか、創業支援とか、スタートアップ支援とかに力を入れていこうと思っています。

ただ、一方で、様々な働き方について、フレックスタイム等も含めて、どうしても民間企業の方々が主になってくるものですから、私たちの理想とするところに、民間それぞれの企業によって、働き方とか、儲け方とか、利益率とか、そういうものが違ってくるのですか

ら、どういう形で経済界の方々と議論をすればいいのかということは、ちょっと今は答えを持ってないです。このような提案を踏まえて、水戸市は水戸商工会議所と連携して様々なこういう議論を行っていますので、そこで、今後、働き方についてどのような改善ができるのか、そのことについて、私たちはどういう連携とか、あるいは、水戸市がどういう支援をすとか、何かインセンティブを与えとか、そんなことがあれば、皆さんが一步踏み込めることができるのか、今、私は答えを持ってなくて、水戸市が直接やることでしたらここでこうだと言えるのですが、どうしても相手がある話になると、私もなかなか答えを導き出せないのですが、私たちとどういう連携があって、水戸市からどういう支援があれば、ライフスタイルも多様化していますから、そういう多様化したライフスタイルに対応するような働き方を各企業が一步踏み込めるのかということを、商工会議所とか、あるいは経営者協会とか、中小企業家同友会とかの団体がありますので、私も年中その集まりには行っていますから、いろいろと懇談をさせていただいて、御意見を伺って、何か一步踏み出せるような仕組み・制度をつくれたらなと思っています。

あとは、今、いろいろな環境整備の話も出ましたので、これは道路管理者、水戸市だったり、県だったり、国だったりありますので、安全・安心に過ごせるのが一番いいことなので、その辺のところはよく街並みを点検させていただきながら、道路管理者のほうに呼びかけをさせていただきたいなと思っています。

ちなみに、防犯灯の管理なのですが、先ほどから話が出ているとおり、最近、町内会の加入率が非常に低くなってきて、町内会がなかなか管理し切れなくなってきているという現状があるので、まずは電気代を全額水戸市が持とうと思っています。今、1,700円ぐらいまで来ているのですが、また令和8年度はちょっと値上げをして、最終的に1基当たり2,100円か2,200円ぐらい出すと、大体それでLEDなら全額負担することになるのかな。LED以外だと三千何百円かかってしまうのですが、今はほぼほぼ98%か99%、もうLED化されているので、年間の電気料って大体2,200円ぐらいなのかな。大体それに近づいてきたので、あと数年かけながら、全額を水戸市が負担しようかなと思っています。

ただ、一つ、問題があって、今、1万7,000基ぐらい防犯灯があるのですが、それを、今度は、地域のコミュニティとか町内会が崩れてきてしまっているのです、水戸市のほうで全部管理してくれないかという要望があるのです。これって、皆さん、どう思うかなのですが、議会でもそうしてほしいみたいなことがあるのですが、かたくなに金は出すけれども管理はしないということを言っているのです。それはなぜかという、何をもって公平・公正なのかということになるのですが、結局、水戸市が管理することになると、誰も自分の家の前の電柱につけてもらいたいでしょう。しかも全部水戸市がお金を出して、水戸市が電気代まで出してとなると、誰も自分の家の前につけてもらいたくなるわけです。そうすると、私の家の前につけてほしいとみんなして来るわけです。それに対応していたら大変な話になってしまうでしょう。しかも、カスタマーハラスメントみたいに声が大きい人が毎日毎日やって来て、俺の家の前につける、俺の家の前につけるとがんがんやられたらこっちは参ってしまうわけです。

それが今は町内会というフィルターをつけてあるわけです。町内会でみんなで話し合っ、この場所につけましょと決めたものでないとつけられないという町内会のフィルターをか

けているのです。そうでないと先ほど言ったようなことが必ず起こる。絶対にこれは間違いがなくて、声の大きい人の家の前だけ電気がつくみたいなのが起る。だから、それを避けるためにもフィルターをつけているのですが、ただ、そもそも町内会がないエリアがあって、笠原地域などは、あれだけ人が住んでいるのだけれども、先ほどの若い人の話なのだけれども、まず自分たちで町内会をつくらうとは思わないわけです。町内会が全くない。全くないから、受け皿がなくて、防犯灯が1基もない。夜行くと、あれだけの住宅がありながら真っ暗。だけど、私たちはかたくなに町内会をつくらせてもらわないとやりませんと。水戸市がやると、また俺の前につけた、私の前につけた、ずるいあの何だのと言われますからやらない。だから、今、夜の防犯対策というか、防犯灯をどういうふうにつけるかということに非常に苦慮しています。これも町内会がなくなってしまったり、後からできた住宅団地などはそもそも町内会がつかれないということで、リーダーがいないということで、防犯対策上も非常にまずいのだけれども、今、どうしたものかということ悩んでいるのです。

つけてあげてしまうと、さっき言ったとおり、ではうちもつけてくれるんだとか、あいつの家の前につけたのだから俺の家の前にもつけてくれと絶対に始まりますから、その辺のところをどうしようかと悩んでいます。何かいい案があったら教えていただきたいなと思います。

そういった夜の安全対策などは、道路管理者といろいろ話し合っていきたいと思っています。

あと、学習スペースの話もあったのですが、とりあえず、今、市民会館と、新しくできたテツ・アートプラザ、クヴェレホールの中につくりました。どちらも自由に出入りできます。クヴェレホールにWi-Fiがあるかどうかちょっと分からないのだけれども、市民会館はフリーWi-Fiがあるので、高校生に限らず、結構昼間は、恐らくテレワークなのでしょうね。あるいは自分で御商売をやっている、別に事務所がなくてもやれるという仕事をやっている方なのか、結構来てやっていますね。フリーWi-Fiですから、使い放題なので、そこで仕事をやっている方もいます。

隣にできたクヴェレホールもその辺のところがあるかどうかは分からないのですが、今、高校生を中心に自由に使っていますね。ただ、市民会館みたいに22時までやっていないから、そこでやって、あちらのほうはいいカフェがあって、コーヒーを飲みながらやっていて、大体夜になると今度は市民会館のほうに移動してくる。市民会館は22時までやっているのです。

ということで、とりあえず、今、学習スペースとか、この絵のようにそれぞれ仕切られて、プライバシーが確保されているかどうかというと、ちょっとそこは違うのですが、ただ、2階のやぐら広場のところは結構こういう雰囲気になっていますので、ちょっとお使いいただきたいなということ呼びかけて、今は、もしかすると高校生しか行ってはダメなのかなとか、そんなふうに使われているかもしれないので、高校生、中学生を中心に利用しているのですが、別に一般の方でも誰でも来ていただいて、そこでお仕事をしようが、テレワークしようが、何しようが構わないスペースにしてあるので、こういう街中に学習スペースとか、あるいは仕事をするスペースがありますよということ呼びかけていきたいと思っています。

あとは、民間もあるので、うちのほうでコワーキングスペース水戸ワグテイルというものを持っていたのですが、この4月1日から閉鎖するのです。利用が非常に低調で、年間

2,000万円もかけているものですから、B/C（費用便益比）上、悪いなと思っていて、それで閉鎖して、ソフト事業、いわゆるセミナーの開催とか、創業支援とか、スタートアップ支援とか、そういうものだけ残して、ソフト事業だけ窓口を商工課のほうに残して、いわゆるハードは廃止しようと思っています。年間2,000万円もかかっているものですから、それは別なソフト事業の支援のほうのお金に回そうということでやらせていただくのですが、おかげさまで民間のシェアオフィスが街中に結構あるのですね。そういうところも御紹介をさせていただきながら、街中でも様々なテレワーク等の働き方ができますよということは、民と官の両方を含めて、民間がやっているシェアオフィス、それから、私たちがやっている市民会館とクヴェレホールさんでやっていただいているもの、そういうフリーでいつでも来て、どうぞ御自由に使えるスペースはありますよ、決して敷居は高くありませんよということは、ちょっとPRさせていただきたいなと思っています。

特に、市民会館は、人に迷惑をかける人は申し訳ないけれども御遠慮いただきますが、そこに誰が来ていただいて、普通にお仕事をしていただいても、学習をしていただいても結構ですので、そういうところはしっかりアピールしていきたいなと思っています。

あと、いろいろな申込みの一元化等についても、どこまで一元化できるか。縦割りという言葉があるのですが、どうしてもそれぞれの担当によっていろいろ違うものですから、全員が理解をしていけばいいのですが。例えば、公園緑地課に行くと、ほかの施設のところはどのようなのですかと言っても、全然それは分からないので、全員が分かるという仕組みをどこかに窓口でつくるべきなのかどうなのか。今、組織もどちらかというところスリム化したい中で、新しい組織をつくらなければならないものから。

あるいは、今までのように、「いや、それはうちではありませんよ」と言うだけではなくて、電話を一本入れて、今からこういうお客さんが行きますから、ちょっと対応してくださいと職員が促してお連れするとか、せめてちょっと手を差し伸べる優しさを今まで以上に持つとか、それで皆さんのストレスがいくらかでも軽減されるようにするとか、いろいろな工夫をしながら、そういったいろいろな申込みなども、皆さんがストレスを感じることなく利用できるような環境をつくっていかねばなと思っています。

ちょっと、今、答えがなくて申し訳ないのですが、一つの窓口にして、その窓口に行けば、水戸市の施設の全部どこでも申込みできますよというやり方は、今はどこでも見たことがないものから、どこかでやっているところがあれば参考にもさせていただきたいなと思っはいますが、そこは勉強させてください。答えがなくて申し訳ございません。ちょっと検討させていただきたいと思います。

あと何かありましたら、御意見をいただければと思います。

○市政モニター

貴重なお話、ありがとうございました。

フレックスタイム制は、相手の企業のことを尊重しなければいけないというところで難しいと感じています。

調べたことだと、人数の規模が大きい企業だったら、ある程度、フレックスタイム制というのも、同じ時間に人を集めなくても回りやすいのですが、人が少ない企業であったりとか、どうしても同じタイミングで人が集まって仕事をしなければいけないというところだと、ど

うしてもフレックスタイム制がなじまないというか、それだとかえって生産性が下がってしまふというようなところもあるということが調べていて難しいと思ったところです。なので、企業を尊重するのですが、フレックスタイム制がちょっとなじまないというような企業でも、何とかその企業の形態の中でうまくフレックスタイム制を導入できるような制度を企業の中で自ら考えてもらって、うまいケースがあったら広めていくということを、市で支えることができたらいいのではないかなと思いました。

よろしくをお願いします。

○高橋市長

分かりました。

そういうところも、経済界とうちがどういう支援ができるか、連携していきたいと思えます。

ありがとうございます。

○市政モニター

学習室の整備というところで、市民会館の学習スペース、本当にありがとうございますと言いたくて。兄弟共々利用させていただきまして。

あの場所があって、あそこに行く理由にもなって、すごくいい場所だなと思っていますので、お礼という形なのですが、ありがとうございます。

○高橋市長

ありがとうございます。

○市政モニター

貴重なお話、ありがとうございました。

組合とか、そういう部分がなくなる、人とのコミュニケーションがなくなるというのが多い部分が現代ではあると思いますが、その中でも貴重な話を聞いて、自分も勉強することができましたので、ありがとうございました。

○高橋市長

ありがとうございました。

参考までに、一つ、この中でいろいろ御商売をやっている方もいらっしゃるのをお聞きしたいのですが、今まで、企業立地で、大物の工場とか流通センターとかを誘致するのを一生懸命やってきたのです。最近では逆転満塁サヨナラホームランみたいな「モノタロウ」という大きい企業で500億円の投資を呼び込んだのですが、あそこで500人ぐらいの雇用が生まれたりするのです。出来上がるのはまだあと3年後ぐらいなのですけれども。そういう大物は大物でいいのですが、今、いろいろ大学生と懇談している中で、話を聞いていると、どうしてもサラリーマン、お勤めする志向が強いから、そうなると、選択肢が多いのは東京とか、ここではないわけですよ。だから行ってしまふのです。

例えば、一度出て行ってしまっても、できれば、昔の言葉で言えば、故郷に錦を飾ろうみたいなことで、会社を興してというような、そういう選択肢をもっと増やしていくと、ここに戻ってくるか、あるいは、初めからここで大学を卒業した瞬間に企業を興してしまふとかという、そこまで器用な人がいるかどうかは分からないのですが、お勤め志向ばかりではなくて、できれば、自分で、小さくてもいいから、1人でも2人でもいいから会社を興そうと

か、そういう創業支援とかスタートアップ支援にもっと力を入れていきたいなと思っているのです。

あとは、先ほど言ったとおり、どうしてもお勤め志向だと東京に出て行ってしまって、そのまま戻ってこないのです、そういうアントレプレナーシップを大学生と一緒にやっていきたいなと思っているのです。

5分ぐらいしかないのですが、何かありますか。

○市政モニター

私は茨城大学に通っていて、ちょうどアントレプレナーシップを受けさせていただいて、無事修了証もいただいたのですが、学ぶことはたくさん多いなと思うのですが、機会がどうしても少ないのか、周知されていないのかなというところが課題かなと思っています、大学生は、ゼミによって就職先の傾向が出たりとかして、私のゼミはみんなそういうアントレプレナーシップみたいなことに興味があるから、実際に起業するという先輩とか友人もいたりするのですが、ほかのゼミとかに行くと、安定的な公務員だとかというところに行ったりするのです。

それって何でなのかなというところ、ゼミの内容でやらなかったりとか、授業で取ろうとしなかったりとかというところで、私の目線ですが、選択肢にそもそもアントレプレナーシップというのが上がってこないクラスとかがあるのです。

そういったところの目線を増やして、選択肢としてアントレプレナーシップがあるよというところの周知とかもそうですし、授業に取り入れてくださいとか、そういうところが重要なのかなというのと、実際に起業をするのにはどうすればいいのかとか、起業した人で、実際にどれくらい成功しているのかとか、どのくらいの生活レベルになるのかというところの不安があるから、どうしても安定に走ってしまう。

今、円高だったりとか、景気が悪いと言われていますが、私も東京に出たいなと思いましたが、今の賃金、初任給で東京で一人暮らしをするのってめっちゃ厳しいかと思って、実家に残ることにしたのです。そういう経済の不安みたいなものがある中で、起業は結構チャレンジャーだと思うので、そういったところの不安が軽減できるようなセミナーや情報発信があるとちょっと変わってくるのかなと個人的に思いました。

○高橋市長

ありがとうございます。

○市政モニター

起業するイコールアントレプレナーだと思っているからものすごくハードルが高いのだと思うのですが、要は、今の大学生の話を聞いたときに、要望型の提案がすごく多かった。誰もが中心になれるまちにしてほしいって、要は、カッコいい大人がいるか、いないかだと思うのです。こういう発言をさせてしまう時点で、そういうふうに見える、こういうふうになりたいという大人がいないことなのではないかなと思って、起業していようが、してしまいが、今の会社をもっとよりよくするにはという社内起業家みたいな言葉もあって、そういうふうにならぬ何か変えようとしている大人が私は身の回りにいたから、自分で自立的に人生は歩めるのだと思って、私はそういうふうに学生たちに思ってもらいたいと思う。私も茨大なのですが、言ってしまうと、人文系だとみんな公務員か地銀なのですよ。そういうところ

が何か違和感で、そうではないかというところから、私は、今、起業してSNSの情報発信もやっているのです。

なので、制度とか補助とかだけではなくて、この人みたいになりたい、こんな大人がいるのだったらこのまちで挑戦したいと思えば、きっと茨大生が大学を出たときに、親御さんに「どこへ就職するの」と言われたときに、福利厚生とかそういう面で親御さんを安心させたいという気持ちはあるのでしょうかけれども、それを凌駕する、「こんな人がいて、こういうふうになれるのだったら自分も幸せに生きられるような気がするんだよ」と親御さんを説得できるような会社が増えたり、そういう大人がいれば、きっと若者定住とか、水戸でそのままお勤めをするみたいな人も増えるのではないかなと思う。

さっきのワーク・ライフ・バランスとか、こどもの話もママさん側からすごく意見が出たりしたけれども、私は、会社に託児所を整えることは難しいことだとは思ってなくて、そういう環境が整っていれば、大企業ではなくても、そこで働けると思ってしまうのです。なのに、そういうのを、制度がとか、いろいろなバランスを見てとやっているから、「ああ、やっぱりそこからやらないと、何かを変えるって難しいんだ」と若者に思わせてしまって、負のスパイラルになっているのではないかと思います。

○高橋市長

分かりました。ありがとうございます。

○司会

それでは、市政モニターの皆様からの発表は、以上となります。

市政モニターの皆様、ありがとうございました。

○高橋市長

皆さん、ありがとうございました。

いろいろ参考にさせていただきます。ありがとうございました。

○司会

以上をもちまして、市政モニター提言書発表会を終了いたします。

皆様、1年間、本当にありがとうございました。